

オーストリア

ポケットガイド

とっておきの時間が
見つかる旅



オーストリアの休日
austria.info

オーストリアの休日

オーストリアは、アルプスからドナウ川、さらには東のパンノニア平原に至るまで、素晴らしい自然景観に溢れています。これら絶景の他にも、この国の特徴の源となっている見どころや歴史、興味深い物語、美食は枚挙にいとまがありません。

しかしながら、いかにアルプスが感動的でも、いかに湖水が透明でも、いかに町が美しくても、結局のところ、オーストリアを特別で素晴らしい国にしているのは、そこに住む人々であるというのは間違いありません。オーストリア人がユニークで、居心地の良いスタイルで生活を送っていることや、個性的で独特なユーモアを持っていることはよく知られています。皆様もこの国を訪れ、よい生き方を求めるオーストリア人の精神性にぜひ触れてみてください。

オーストリア政府観光局



P. 3

オーストリアについて

オーストリアの芸術やグルメ、歴史、地理などをご紹介



P. 26

ウィーンについて

ウィーンの見どころ
ウィーン市街地図
ウィーンの郊外へ



P. 36

ザルツブルクについて

ザルツブルクの見どころ
ザルツブルク市街地図
ザルツブルクの郊外へ



P. 43

グラーツについて

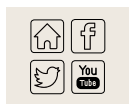
グラーツの見どころ
グラーツ市街地図
グラーツの郊外へ



P. 48

インスブルックについて

インスブルックの見どころ
インスブルック市街地図
インスブルックの郊外へ



P. 51

インフォメーション

旅に役立つ基本情報



発行：オーストリア政府観光局 Austrian National Tourist Office

編集&デザイン：株式会社東美 発行日：2023年4月

記載内容は変更されることがあります。

施設のオープン状況、イベントの開催については各ウェブサイトでご確認ください。この印刷物は環境に配慮し「FSC®森林認証紙」を使用しています。

大都市の礎となった ウィーン万国博覧会

150年前に開催された大規模なウィーン万博は、
ウィーンがヨーロッパの大都市として
大きな発展を遂げる機会となりました。
都市開発、観光地としてのインフラ整備、
市民生活の向上となった上水道の新設、
高級な手工芸品の発展、女性の地位向上など…
今も、ウィーンはその恩恵を受け続けています。

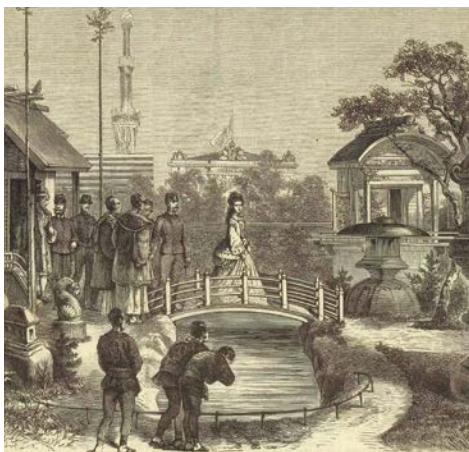


「文化と教育」というテーマで行われたウィーン万国博覧会は、皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の治世25周年を記念して、1873年5月1日から10月31日まで、ウィーン・ブラーター公園で開催されました。それ以前、パリとロンドンで開催された4回の万博より、ウィーン万博は規模も豪華さも遥かに超えるものでした。ブラーター公園には中心となる円形建築「ロタンダ」と呼ばれる印象的な産業パビリオンが建設され、左右には合計約200棟の建物が並び、緑とドナウ川に囲まれた大規模な展覧会場となりました。

ウィーン万博に参加したのはヨーロッパ諸国の他、アメリカ、ブラジル、ベネズエラ、エジプト、ペルシャ、インド、サイアム（タイ）、中国、そして日本など35カ国にのぼりました。6ヶ月の会期中、合計約726万人の訪問者を迎え、前例のないスケールの展覧会となったのです。

1873年当時のウィーンの背景

ウィーン万国博覧会は、ウィーンが19世紀の世界的大都市へと飛躍するきっかけとなるイベントでした。当時、ウィーンは都市の拡張と環状道路の整備など、建設ラッシュに沸き急速に成長していました。その背景には物価の高騰、万博来場者の宿泊所確保による市民の住宅事情の悪化、コレラの流行など、諸々の問題を抱えていましたが、ウィーン人の新しいものに対する挑戦、未来に躍進しようとする精神、他国の芸術への理解と関心によって、産業の発展とともにウィーンを大きく飛躍させることになりました。



また、特に日本が力を入れたものに、日本庭園がありました。日本から材料、工具、職人をすべて投入したため、日本庭園を造り出す過程は、驚きをもって詳細に報道されました。西洋人にとってはすべてが新鮮で、珍しいものだったに違いありません。オープニングの式典には皇帝フランツ・ヨーゼフ1世と皇妃

実際、大々的に街のインフラが整備されたことにより、万博の開催は多くの良い影響をウィーンにもたらしました。万博に先立って大洪水を防ぐためにドナウ川の大改修が行われ、同時に、アルプスから新鮮な飲料水をウィーンに直接供給する、当時の画期的な技術を駆使した第1次ウィーン高地水源水道など、今日でもウィーンの質の高い生活に欠かすことのできないインフラが築かれました。これにより人々の衛生環境が整い、疫病の収束にも役立つこととなります。1873年頃には6つの新しい鉄道駅も建設され、ウィーンは中央ヨーロッパの鉄道のハブとなり、公共交通機関と都市観光も急速に発展しました。

日本の出展とオーストリアの評価

1867年のパリ万博での出展規模とは比較にならないほど、日本はこのウィーン万博に力を注ぎました。1873年のウィーン万博においては、明治政府として初めての万国博覧会参加であるため、出展数のみならず質においても、西洋からの高い評価と認知を得るという目的を持って臨みました。案の定、準備の段階からすでに、各新聞メディアは日本が出展する品々に興味を持って観察していました。これほど日本が西洋に直接接する機会はそれまでなかったからです。特に漆器、陶磁器、和紙、絹製品など美術工芸品には期待が集まりました。

これらの美術工芸品の粋を集めた日本館は多くの注目を集め、ジャポニズムブームが起こりました。ジャポニズムは後年浮世絵や屏風画に興味をもったクリムトの作風にも影響を与えたと言われています。

エリザベートが臨席し、太鼓橋の渡り初めをしました。後に皇帝は日本庭園に大変な称賛を送っています。日本が出品した展示品の多くはウィーンに残され、現在はMAK 応用美術博物館とウィーン世界博物館にて、ジャポニズムの流行を生み出した貴重な資料として展示されています。(参考文献：たばこと塩の博物館)

現在に引き継がれるウィーンの出展企業

万博に出展したウィーンの手芸品は、現在でも人気のウィーン・プロダクツです。J. & L. ロプマイヤーはケルトナー通りに店舗をもち、高級なシャンデリアやクリスタルガラス製品を並べています。またノイアーマルクトに店を構える宝石商 A. E. ケッヒャートは当時と同様に宝飾品を扱っています。オーダーメイドの靴職人シェア、銀細工のヤロシンスキー&ヴォーゴアン、そしてベーゼンドルファーのピアノもまた、すべて万国博覧会に出展され、今日でもウィーンで特別な製品を提供しています。今や菓子司として有名なゲルストナーは、万博でケータリングを担当し、これを機に帝室御用達となりました。



また、リング通りには外国からの賓客が宿泊するために宮殿を改築し、ホテル・インペリアルやホテル・ハンセン・ケンピンスキーなどが新たにオープンしました。ウィーンを代表するカフェの一つ、カフェ・ラントマンもこの年に創業しました。音楽の方面では、ヨハン・シュトラウス2世がこの時代に大活躍しており、ウィーン万博の翌年、1874年にオペレッタ『こもり』が初演されました。ウィーンは都市計画と知的創造活動の両面で新しいアイデンティティを獲得し、今でも当時の成果からの恩恵を受け続けています。

プラーターに円形パビリオン、ロタンダ再現

2023年初夏、プラーターに巨大なロタンダがオープンし、その中で大きなビジュアルスペクタクルを体験することができます。360度の巨大アートが目の前に現れる「パノラマウィーン」をはじめ、プラーターにまったく新しい感覚の観光スポットが誕生します。この新しいロタンダは、高さ32メートル、周囲約100メートルの円形建造物で、その元となるのは1873年のウィーン万国博覧会に建設されたロタンダです。当時は世界最大のドーム型建造物で27,000人を収容できる印象的な産業パビリオンでしたが、1937年に火事で消失してしまいました。したがって、万博150年後の2023年にできるロタンダは、このプラーターの歴史の復活でもあります。



ウィーン万博開催150周年を記念して、2023年ウィーンの様々な場所で展覧会が開催されます

世界の国々や民族の展示が見られるウィーン世界博物館では、1873年のウィーン万国博覧会とその時代に関する展示が紹介されます。ウィーン産業技術博物館では「Women at work展」と題し、女性労働関係の資料や万博の展示品とともに映像を通して、当時の女性の仕事の経済的および社会的意味を検証します。これはウィーン万博で初めて女性の活躍に焦点を当てた「女性館」が建設されたことによるものです。



また、MAK応用美術博物館では、150年前のウィーン万博に端を発するオリエンタリズムの流行をテーマとした展示と、創業150周年を迎えるウィーン屈指のクリスタルガラスの老舗企業、J. & L. ロブマイヤーに関する展示を行います。

バロックのランドマーク ベルヴェデーレ上宮300周年

2つの宮殿と広大な庭園が見事に調和したベルヴェデーレは世界で最も美しいバロック建築のひとつです。

ハイライトは、グスタフ・クリムトの世界最大のコレクション。2023年にベルヴェデーレ上宮は300周年を迎えます。



1723年、ハプスブルク家に仕えた最も有名な将軍サヴォイ家のオイゲン公は、夏の離宮であるベルヴェデーレ宮殿上宮を10年の歳月をかけ、建築家ヨハン＝ルーカス・フォン・ヒルデブラントの設計により完成させました。その後、美術館として、またバロックの歴史的建造物としての魅力を備えるベルヴェデーレは、時代を超えて権力と名声を博してきました。

オイゲン公は17世紀後半、レオポルド1世以降3代にわたってハプスブルク家の皇帝に仕えた名将です。1683年、オスマン帝国軍にウィーンが包囲された際にはトルコ軍を押しつけバルカン半島まで追撃し、ベオグラードを陥落させた英雄です。この時オイゲン公が率いたオーストリア軍は、多大な犠牲を払いながらもトルコ軍を撃退し、ハンガリーを奪回することができました。また、スペイン継承戦争でも各地で勝利し、オーストリアが大国への道のりを歩んだのは、軍事の天才オイゲン公に負うところが多大でした。「プリンツ・オイゲン」とも呼ばれ、オーストリア人にも愛される英雄の一人です。

1736年に72歳で亡くなった後は、相続人がいなかったため、ベルヴェデーレをはじめとする彼の宮殿や莫大な財産は、すべてハプスブルク家へ寄与されました。ベルヴェデーレ宮殿は宮廷の祭典の場として様々な役割を果たしてきました。1955年には、米英仏ソ4か国の連合軍による占領統治10年を経てオーストリア国家条約が調印され、オーストリアが再び独立国となった歴史的な場所でもあります。



ベルヴェデーレ庭園

ベルヴェデーレの庭園は、ヨーロッパで最も重要とされる歴史的なフランス式庭園のひとつです。今日のように縮小された庭園となってもなお、優れた後期バロック式庭園デザインの好例として非常に高く評価されています。庭園からは世界遺産のウィーン市街地が見え、「美しい眺め(ベルヴェデーレ)」と名付けられたのもうなずけます。

ベルヴェデーレ上宮

オーストリア美術史上の最高傑作といわれるグスタフ・クリムトの「接吻」を展示しているのは、世界最大のクリムト・コレクションを有するベルヴェデーレ宮殿の上宮に入っているオーストリアギャラリー。クリムトの「接吻」は門外不出となっており、この場所ではしか見ることのできない作品です。絢爛たる金がまばゆい光を放ち、男女の愛の形を象徴的に表現した名画といわれています。さらに「ユーディット」を含むクリムトの著名な女性の肖像画も数多く展示されています。

また、エゴン・シーレとオスカー・ココシュカの作品、フランス印象派の代表作と、最大のウィーン・ビーダーマイヤー時代の芸術コレクションもベルヴェデーレ上宮に展示されている魅力溢れる所蔵品のハイライトです。ベルヴェデーレ上宮のシュロスカフェでは、美術館でひと休みしたいとき、また、庭園を散歩した後でも、歴史的な雰囲気の中でオーストリア料理とともにウィーンのカフェ文化を楽しむことができます。

ベルヴェデーレ下宮

ベルヴェデーレ上宮が華やかな公式行事の舞台となったのに対し、ベルヴェデーレ下宮はオイゲン公の居城でした。この下宮は一年半の改修工事の後、2022年に再びその扉を開け最上級の特別展会場となりました。新しくなった下宮ではエントランスエリアが再設計され、わかりやすい見学コース、アクセスのしやすさなどを加え、ゲストに魅力的な美術館体験を提供しています。防火、安全、空調技術も最新のものになりました。1階に新しくできたパークカフェでは、ゆったりとしたひと時を過ごすことができます。庭園を散歩した後は新しくなったベルヴェデーレ下宮の特別展にぜひお出かけください!



芸術の国 オーストリア

オーストリアは長い歴史を通じて音楽と美術の保護を
旗印に掲げ、他国ではほとんど例がないほどの
資金と労力を注いできました。



ヨーロッパの中心に位置するオーストリアは、古来より様々な文化が交錯し、豊かな文化と歴史を育んできました。中でも「音楽」は、この国を紹介する上で最も重要な代名詞といえます。世界的に名高いウィーン国立歌劇場、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン少年合唱団、ウィーン・フォルクスオーパーなどは、オーストリアの文化使節としても活躍しています。

オーストリアの音楽史上「ウィーン古典派」は、偉大な文化遺産の一つに数えられます。そのウィーン古典派は、ハイドンに始まり、モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルトが含まれます。ロマン派を代表するのは、ブラームス、ヴォルフ、ブルックナー、マーラーです。ヨハン・シュトラウスとフランツ・レハールはオペレッタの分野で名を馳せ、そして、シュランメル兄弟の音楽は、ウィーンのワイン居酒屋「ホイリゲ」と切っても切れない関係にあります。

毎年各地で開催される数多くの音楽祭や芸術祭には、世界中から音楽ファンが集まります。

最も有名なザルツブルク音楽祭をはじめ、ウィーン芸術週間、ボーデンゼー湖のプレゲント音楽祭、メルビッシュの湖上音楽祭、グラーツのシュティリアルテ音楽祭、フィラッハ/オシアツハのカリンシア夏の音楽祭、シュベルティアーデ、リンツの国際ブルックナー音楽祭やクラングヴォルケ、そしてグラーフエネック・クラシック音楽祭、サンクト・マルグレーテン採石場野外オペラフェスティバルなど、多彩なプログラムが繰りひろげられます。詳しい情報は14～17ページにも掲載していますので、ご覧ください。

また、ウィーン・フィルのニューイヤーコンサートとシェーンブルン宮殿庭園での夏のコンサートは毎年、世界中に中継・放映され、音楽ファンを楽しませてくれます。

オーストリアの美術コレクション

帝国の時代、ハプスブルク家の人々は芸術作品収集に情熱を傾け、幾世紀にわたり世界中から数多くの絵画や美術品の名作が集められました。現在、オーストリア全国にはルーベンスやブリューゲル、ペラスケスなど古典の大家から新進の現代芸術家までの作品を擁する約1000の美術館・博物館があります。特に人気の高い世紀末芸術の「ユーゲントシュティール」様式を代表するグスタフ・クリムトや、エゴン・シーレやオスカー・ココシュカの絵画は、世界的な名声を博しています。

オーストリアのデザイン

百数十年も前から受け継がれている職人たちの手仕事を現代に再現した「ウィーン・プロダクツ」認定企業の製品をはじめ、オーストリア発のアクセサリーやファッションが世界的に注目されています。特に、豊かな文化遺産と若く活力あるクリエイティブシーンの両面を持つウィーンは、まさにクリエイティブ業界の中心地です。また、全国にあるカフェやレストラン、ホテルなどでも、オーストリアならではのデザインを感じるすることができます。

オーストリアならではの逸品

アクセサリーをお求めなら、日本でも人気の高い「スワロフスキー」は本場オーストリアのショップを訪れてみてください。ワッテンスの本社に隣接するクリスタルワールドの他、インスブルック、ウィーンやウィーン空港にショップがあります。可愛い小物やアクセサリーの数々がショーウィンドウを飾り、その豪華さはメルヘンの世界そのものです。

伝統的な品物をお求めなら、高級磁器セットの代名詞「アウガルテン」、美しいクリスタルガラス製品でゴージャスな食卓を演出できる「ロブマイヤー」、独自のアトリエを構えるテ-



ブルウェアやリネンのお店「シュヴェービッシェ・ユングフラウ」、ユーゲントシュティールの美術工芸品や各種ウィーン・プロダクツ商品を展示・販売する「オーストリア工房」、歴史的なデザインによる家具やハイセンスなインテリアを生産する「フリードリッヒ=otto・シュミット」などがお勧めです。

ウィーンでのファッションでは、バラエティー豊かなデザインを取り揃える帽子店「ミュールパウアー」、伝統的な民族衣装とロマンチックな1950年代ファッションに現代的なエレメントを加えた「レナ・ホシエック」、軽やかで時代を超越したファッションの独自ブランドを展開する「ピア・ミア」、選抜きの眼鏡やサングラスの数々をコレクションするアイウェアのお店「シャウシャウ・プリレ」などが人気です。

ウィーンでちょっとした小物をお探しなら、最高級のナチュラルコスメティックスが揃う「セントチャールズ・コスモテカリー」、モダンなデザインのハンドメイド陶器が揃う「マノ・デザイン」、愛らしい商品の並ぶ雑貨店「アンナ・シュタイン」などはいかがでしょう。地域の伝統工芸品では、かわいい花柄や渦巻き模様のグムンデン陶器、美しい民族衣装のディアンドルや厚手のウールジャケットのワルクヤンカー、レーダーホーゼンなどもおすすめです。



偉大な音楽家 モーツァルト、ベートーヴェン、 シューベルト、ブルックナー

音楽を抜きにしてオーストリアは語れません。
オーストリアゆかりの4人の偉大な音楽家をご存知ですか？
心の琴線を調律して音楽の国オーストリアへお出かけください。



ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト (1756-1791)

世界の著名な作曲家の中でも最も重要な人物の一人であるヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトは1756年、ザルツブルクのゲトライデガッセ通りにある、現在は明るい黄色の建物(モーツァルトの生家)の3階で生まれました。ここは、彼が子供時代をずっと過ごした場所でもあります。父親のレオポルド・モーツァルトは、早くから息子の音楽的才能に気付き、ヴォルフガングの音楽的活動を奨励し促進しました。彼が4才になると、小さなモーツァルトはピアノと作曲の教育を受け始めました。そして6才になると、ウィーンの宮廷訪問を含む、初めての演奏旅行へと出発します。

「旅は人の視野を広げる」、この言葉は彼の父レオポルド・モーツァルトの持論でした。モーツァルトは35年の生涯のうち、何と10年間を旅に費やした計算になるそうです。訪れた街の聴衆は、神童モーツァルトのピアニストとしての妙技に歓喜し、その驚くべき才能は、この旅路によってヨーロッパ中に知れ渡りました。しかし、当時旅の主な交通手段は馬車によるものだったので、時間がかかり辛いものでした。ザルツブルクからウィーンに行くにも、実に一週間以上を必要としました。彼の素晴らしい作品は、旅なしでは生まれ得なかったであろうことは、容易に想像が付きまします。モーツァルトはヨーロッパの大都会で、その作品によって聴衆の心を捉えただけでなく、街からも多くの作品のアイデアやインスピレーションを得るという恩恵を受けていたのです。

11 モーツァルトは合計626もの作品を作曲しましたが、彼は当時としても短命で、わずか35才までしか生きられませんでした。モーツァルトは12才になるまでに、既に3つのオペラ作品、6つの交響曲と何百もの作品を作曲しています。その天才的な才能は、当時の人々を感動させただけではなく、モーツァルトの驚異的な作曲に対する人々の感嘆は、今なお生き続けています。

そして、現在に至るまで「モーツァルト・マニア」の熱情は少しも衰えてはいません。実際に、ビジネスの面でも、その他の様々な事においても、モーツァルトほど成功を収めたミュージシャンはいません。オーストリアのポップスター、ファルコは1986年に米国のポップチャートに「ロック・ミー・アマデウス」という曲で席卷し大ヒットを飛ばしました。ミロス・フォアマン監督は、映画『アマデウス』で、1984年に8つの部門でオスカーを獲得しました。アン・デア・ウィーン劇場では、ミュージカル『モーツァルト』の公演で連日満員という大ヒット興行成績を収めました。彼の肖像画は、オーストリアの1ユーロ硬貨を美しく飾っているだけではなく、有名なチョコレートモーツァルトクーゲルンにも見られます。この前代未聞の偉大なる音楽の天才にまつわる、数え切れないほどの伝記、小説、伝説が「モーツァルト・ブランド」の観客動員力の凄さを証明しています。

2022年9月、モーツァルトの体験型ミュージアム「神話モーツァルト Mythos Mozart」がウィーンを中心街にあるケルトナー通りのデパート「シュテッフル」の地階にオープンしました。ここはモーツァルトが1791年12月

5日に亡くなったゆかりの場所です。ハイテクなマルチメディアを駆使したクリエイティブな空間でモーツァルトの音楽を体験でき、5つの部屋を巡る60分のツアーは、モーツァルトや音楽ファンだけでなく、どなたにとっても新たな感覚を呼び起こしてくれます。

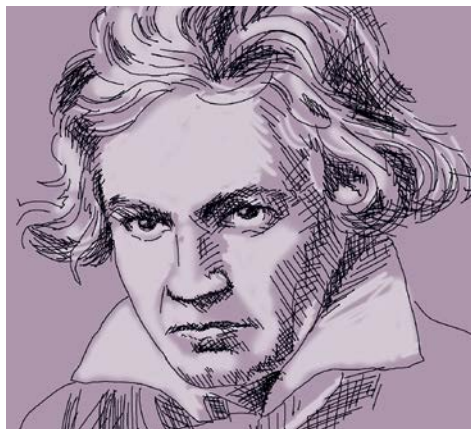
ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン (1770-1827)

1770年12月、ドイツのボンにおいて生まれたベートーヴェンは、幼いうちから才能に恵まれ、14歳にして正式に宮廷楽師となり、そして1787年には、さらなる勉強のため、当時ウィーンで活躍していたモーツァルトへの弟子入りを試みます。かねてから憧れを抱いていたモーツァルトでしたが、多忙を理由に師事を断られ、さらに母の危篤の知らせによりボンへ戻ることとなります。

22歳のときに再びウィーンを訪ねましたが、モーツァルトは早世していたためハイドンやサリエリ、アルブレヒツベルガーに師事します。以降35年間にわたりウィーンで暮らし作曲活動をしました。

ウィーンでの生活は順調で、ピアノの即興演奏や作曲活動で名声を得ていきました。彼にはルドルフ大公、キンスキー公爵やロブコヴィッツ公爵といったパトロンがおり、毎年年金を保証されていました。また、ウィーン会議のおかげで豊かな収入があったともいわれています。そんなベートーヴェンですが、生涯独身を通しました。一説によると、身分違いの若き伯爵夫人との悲恋により、彼女への

報われない想いを貫いたのではないかということです。ベートーヴェンは多岐にわたって楽しみを見つけていたと知られていますが、特にコーヒーが大好きでした。当時、温かい飲み物は高級品でしたが、ベートーヴェンは自分のコーヒーマシンを持ち、常に正確に60粒のコーヒー豆を使用するという特別なこだわりをもってコーヒーを淹れていました。





フランツ・シューベルト (1797-1828)

ウィーンに生まれ、ウィーンで生涯を過ごした作曲家フランツ・シューベルトは、歌曲(リート)の王と呼ばれています。彼はあらゆる音楽ジャンルで秀でていましたが、作曲した曲には

5歳のときに患った中耳炎が原因で、20代後半の頃より持病の難聴が徐々に悪化します。ひどくなる聴覚障害の治療のため、彼はハイリゲンシュタットにあった保養施設を頻繁に訪れました。しかし失意のベートーヴェンは、その絶望感から何度も自殺を考えました。現在はベートーヴェン博物館として改装されたアパートで有名な「ハイリゲンシュタットの遺書」を書きました。しかし、この「最後」の手紙は弟たちに送られることはありませんでした。音楽への情熱を胸に、困難の中、珠玉の作品群を作り上げたのです。この家でも交響曲第3番『エロイカ』を手掛け、その後ここで彼の最大の作品である交響曲第9番にも取り組みました。ハイリゲンシュタットを始め、このウィーン19区のデブリングを歩きながら、偉大な作曲家が生活し感じた景色を辿ってください。

1827年3月にベートーヴェンが世を去ったとき、ヴェーリング墓地で行われた葬儀には2万人もの人々が参列しました。当時のウィーンの人口からすれば、10人に1人のウィーン市民が参列したことになります。ヴェーリング墓地の閉鎖に伴い、60年後、ベートーヴェンの墓はウィーン中央墓地の名誉区32aに移されました。

なお、2024年は、ベートーヴェン『交響曲第9番』初演から200周年の記念の年です。現在のホテル・ザッハーの位置にあったウィーン・ケルトナートア劇場にて1824年5月7日に初演されました。

600を超える歌曲があり、美しいメロディーという点でいえば、この歌曲の王は間違いなく、音楽史上最も創造的な作曲家の一人であることは確かでしょう。シューベルトはゲーテの『魔王』や『糸を紡ぐグレートヒェン』などの詩を楽曲にしました。彼の曲には、これまで誰の楽曲からも得られないような力強い光と闇の謎めいた魅惑が感じられます。作曲家フランツ・リストは、シューベルトのことを「未だかつてない最も詩的な音楽家」と称しました。

シューベルトは1797年1月31日、ウィーン9区にある家の小さな台所で生まれました。現在ここはシューベルト生家博物館となっていて、有名な肖像画やトレードマークであるメガネなどが展示されています。

シューベルトは子供の頃とても美しい声を持っていたので、早い頃から宮廷の聖歌隊員になりました。11歳の時、彼はドクター・イグナツ・ザイペル広場にある宮廷市立大学に入学しました。モーツァルトの有名な同僚でシューベルトの教師になる予定だった宮廷指揮者アントニオ・サリエリは、シューベルトの才能をすぐに認めました。

言い伝えによるとシューベルトは、目が覚めたらすぐに作曲のアイデアを書き留められるようにと、眠っている時でもメガネをかけていました。31歳で亡くなるという短い生涯ながら、現在確認されている楽曲は1,000近くを数えます。シューベルト曰く、「私は作曲するためだけに、生まれてきたのです」と残した言葉とおりの人生でした。

13 午前中は作曲、午後は散歩を楽しんだり、友人たちの集まりでピアノを弾いたりしました。特筆すべき2つの重要なことは、この天才作曲家が生涯、自分のピアノを持たなかったことと、彼の公のコンサートはたった一度だけ、死ぬ7ヶ月前に開かれた、ということです。シューベルトはベートーヴェンが亡くなった翌年の1828年11月、兄のフェルディナントのアパートで亡くなりました。その時、フランツはまだ31歳でした。彼は治癒していない梅毒に苦しんでいましたが、直接の死因はチフスだったようです。アパートはきしむ木の床と白塗りの壁の小さな3部屋からなる建物で、現在は博物館となっており、本物のシューベルトの遺髪や、兄のピアノ、彼が最後に書いた歌曲『鳩の便り』を含むオリジナルの楽譜の複製などを見ることができます。シューベルトは、現在はシューベルト公園となっている旧ヴェーリンク墓地のベートーヴェンの墓の隣に埋葬されました。彼はベートーヴェンを非常に賞賛していましたが、彼の恥ずかしがり屋の性格が妨げとなって、憧れの音楽家であったベートーヴェンには生涯、直接会うことはありませんでした。彼らは死後、初めて親密になることができたのかも知れません。1888年、シューベルトの遺骨は、ウィーン中央墓地(グループ32A、番号28)の墓に移されました。シューベルト公園の元の墓所には、友人の詩人が書いた碑文が刻まれたオリジナルの墓石が残っています。

当時、シューベルトの音楽は「シューベルティアード」と呼ばれる親しい仲間が集まるハウスコンサートで演奏されていました。今日のシュヴァルツェンベルクとホーエナムスで行われる「シューベルティアード」は、50年近くもの歴史があり、世界最高峰のシューベルト音楽祭として世界中のシューベルトファンを魅了しています。



アントン・ブルックナー (1824-1896)

交響曲の大家であり、オルガン奏者としての才能にも恵まれたアントン・ブルックナーは、19世紀後半で最も重要な作曲家の一人と言われています。ブルックナーは、1824年、リンツ郊外のアンスフェルデンで村の学校教師を務める父のもと12人の子供の長男として生まれました。ごく幼い頃から音楽の才能を示し、父親が亡くなった12歳より Санкт・フローリアン修道院で宗教と音楽の教育を受けることとなります。1840年にはこの修道院の教師兼オルガン奏者となり、20代前半で最初のモテットとレクイエムを作曲しています。1855年、ブルックナーはリンツ大聖堂のオルガニストに就任し、職業音楽家となりました。

ブルックナーはリンツで過ごした頃、よくドナウの川岸に立って物思いにふけていたのでしょうか。19世紀の静かで牧歌的な環境でブルックナーが体験した様々な音や独特な感覚は、彼の作曲活動に活かされたに違いありません。ブルックナーは敬虔なカトリック教徒であり、メランコリックで孤独を好み、(いつも若い娘に夢中になっていたものの)生涯独身で、帝政時代のゴシップ社会を嫌っていました。また、作曲以外の時間は自然の中で過ごしました。創造への畏敬の念なしに、ブルックナーの音楽は考えられません。ドナウ川やブドウの木に覆われた斜面、草原、そして深く悠久の森のすべてが、彼のインスピレーションの源となっていました。

30代になってからウィーンを訪れ、作曲の勉強や音楽活動を行い、1868年にはウィーンに移住しました。今日ブルックナーは、ブラームスやワーグナーと並んで19世紀後半で最も影響力のある作曲家と見なされています。アントン・ブルックナーは、1896年10月10日にウィーンで亡くなりました。現在は、最初の作品を作曲した、 Санкт・フローリアン修道院附属教会のオルガンの地下に眠っています。2024年はブルックナーの生誕200周年を迎えます。ブルックナーのゆかりの地や、音楽祭などイベントに出かけ、ブルックナーの音楽を体験してください。

オーストリアの 音楽祭／フェスティバル

大規模で有名な音楽祭やフェスティバルは、長年にわたり世界の文化イベントの中で最上位の地位を築き、近隣や遠方の国々から訪れる音楽ファンを魅了しています。



オーストリアには世界レベルの大音楽祭から、地方の小さいフェスティバルまで200以上の音楽祭があります。その多くは地域をあげてワクワクするような祭り気分の雰囲気の中で開催されます。美味しい郷土料理も見逃せない文化体験です。また、ジャズやダンス、パフォーマンスフェスティバルなどは、年を重ねるごとにそれぞれ特徴を形作り、文化イベントに欠かせないものとなっています。以下に、オーストリア全国の主な音楽祭とフェスティバルをご紹介します。

モーツァルト週間

1956年以来、モーツァルトの誕生日である1月27日を挟んで、モーツァルト週間は生誕地ザルツブルクで開催されています。この音楽祭は国際モーツァルト財団が主催するもので、世界的に有名なモーツァルトの名演奏家やウィーン・フィルやモーツァルト管弦楽団などのオーケストラが、祝祭劇場、モーツァルト大ホール、モーツァ

ルト劇場などの会場でモーツァルトを中心に、他の作曲家の作品にもスポットライトを当て素晴らしい演奏を行っています。

開催：1月～2月

ザルツブルク・イースター音楽祭

1967年ヘルベルト・フォン・カラヤンにより創設された復活祭に行われる音楽祭で、45年間ベルリン・フィルが演奏していました。2013年からは他の著名な楽団が新たな時代を切り拓いてきましたが、2026年より再びベルリン・フィルが戻ってくることになっています。

音楽祭のプログラムは一流のオペラ、オーケストラコンサート、合唱曲、室内楽、高い芸術性をもつ若者のためのプロジェクトからなっています。

開催：4月

ウィーン芸術週間

ステージの上だけではなく市全体が舞台となり、全く異なる音楽を視聴覚化することがウィーン芸術週間の目的です。その豊かな芸術性で、国際的なアーティストたちとのジョイント・プロジェクトや、オペラ、舞台劇、コンサート、パフォーマンスアート、展覧会など幅広いジャンルを強調した革新的なイベントによって、ウィーン芸術週間は60年間の経験で世界のフェスティバル・シーンで重要な地位を築き上げました。

開催：5月～6月

ザルツブルク音楽祭

ザルツブルク音楽祭は1920年、第一次世界大戦後の荒廃したヨーロッパの人々を和解させることを目的とした平和プロジェクトとして、マックス・ラインハルト、リヒャルト・シュトラウスらによって創設され、すでに創立100年を迎えています。

ホフマンスタールの言葉を借りれば、ザルツブルク音楽祭はオペラと演劇の両方を、最高の状態で上演するために設立されました。今日、ザルツブルク音楽祭は世界で最も有名なフェスティバルです。

開催：7月～8月

ライディングのリスト音楽祭

神童、ピアノの名手、プレイボーイであり聖職者。自称「放浪の音楽家」であったフランツ・リストは1811年に、ブルゲンランド州のライディング村で生まれました。リストの生家は現在、博物館となっています。

生家のすぐ隣にあるリスト・コンサートホールは、ブルゲンランド州の建築賞を受賞した建物で、600席が設けられています。

開催：3月、6月、10月



レハール音楽祭

オペレッタの一時代を築き上げた作曲家フランツ・レハールは、風光明媚なザルツカンマーグートの中心地バート・イッシュルに別荘を持つ名誉市民でもありました。1961年に設立されたバート・イッシュル・オペレッタフェスティバルは2004年にレハール音楽祭という新たな名称になり、国際フェスティバルのカレンダーの一部になりました。会場はクアハウス。

開催：7月～8月

ザールフェルデン・ジャズフェスティバル

ザルツブルク州の風光明媚なザールフェルデンで、40年以上にわたり毎年開催される国際ジャズフェスティバル。コングレスセンターを始め、市庁舎前広場から周辺の高原や山がステージとなります。

開催：8月



シュティリアルテ音楽祭

グラーツで毎年夏に開催されるシュティリアルテ音楽祭は、2016年に亡くなったニコラウス・アーノンクールが30年間にわたり主宰してきた音楽の歴史を刻む音楽祭です。ユネスコ世界遺産のグラーツ歴史地区の様々な場所、エッゲンベルク城などの他、シュタイヤマルク州の小さな町や自然の風景も音楽会場です。

ウィーン・コンツェントゥス・ムジクスの他、シュティリアルテ音楽祭管弦楽団に加え、フェスティバルのレギュラーゲストには初期古典音楽のスターたちが出演します。オープニングコンサートはグラーツ市民公園にて野外で開催され、入場無料です。

開催：6月～7月

「カリンシアの夏」音楽祭

この音楽祭の目的は、様式化された音楽のレパートリーの制約を打破することにあります。ゴットフリート・フォン・アイネム、アルヴォ・ペルト、ズーピン・メータ、リカルド・ムーティやギドン・クレーメルなどが、フェスティバルに深く関わってきました。

上演会場は、バロック期の素晴らしい装飾を持つオシアッハ修道院、アルバン・ベルク・ホール、音楽祭の第二の故郷であるフィラッハの会議センター、クラーゲンフルトの大聖堂、ギュンター・ドメニクのアヴァン・ギャルドなシュタインハウス、近郊の城館や教会など、多様なステージが用意されています。

開催：7月～8月

インスブルック古楽器音楽祭

ルネッサンスとバロックの時代、インスブルックはヨーロッパの重要な音楽の中心地でした。現存する初期古典音楽の最古のフェスティバルであるインスブルック古楽器音楽祭は、その伝統を受け継いでいます。1976年以來ずっと、古典音楽界で最も著名なアーティストたちを招いています。

会期中はミュージシャンたちの奏でる陽気な音楽が街の広場に溢れ、インスブルックの歴史的な会場すべてが、華麗なオペラ作品や有名なアンサンブル演奏の舞台となります。

開催：8月

メルビッシュ湖上音楽祭

ユネスコ世界遺産であるノイジードラーゼーの湖上舞台で夏の夜に繰り上げられる楽しい音楽祭。メルビッシュ湖上音楽祭では毎夏、ミュージカルやオペレッタの傑作が次々に上演されています。音楽祭の会場は、ヨーロッパで最大かつ最も美しいオープンエアのステージの一つで、国立公園の印象的な自然の風景によく調和しています。

有名な演奏家たちによるオペレッタやミュージカルの楽しく美しいメロディーは、世界中から訪れる観客を日常生活から遠く離れた魔法の世界へと導いてくれます。

開催：7月～8月

ブレゲンツ音楽祭

毎年夏の4週間、ブレゲンツの観衆は広々とした空の下、これまで体験したことのない強烈な印象の中で、不朽のオペラを鑑賞することになります。このオペラの夕べは、指揮者が指揮棒を振る何時間も前、観客たちが水に浮く湖上ステージに船に乗って集まってくる時点から始まります。このパフォーマンスも見せ場の一部となっているのです。

湖上ステージの他、祝祭ホールでのオペラ上演、オーケストラのコンサートや劇団のゲスト出演、ワークショップ劇場、祝祭ホールやブレゲンツ・クンストハウスでの現代作品や、その他の会場で数多く行われる若者の「クロスカルチャー」のシリーズの一部となっているイベントが音楽祭を完結させます。

開催：7月～8月

サンクト・マルガレーテン

野外オペラと受難劇

サンクト・マルガレーテンでは二千年の間、ヨーロッパ最大の採石場として砂岩が切り出され、奇妙な岩の風景が造られました。これにより、巨大なオペラのステージセットが生まれ、1996年に、オリエンタル風の地形の景色を背景幕として、ヴェルディ作「ナブッコ」が初演のオペラとして上演されました。

一流の歌手を出演者に迎えて、人気オペラ作品が上演されるフェスティバルには、今では毎年2万人を越すオペラファンが集まります。また、5年毎に行われる受難劇は、この古代ローマの採石場のオペラステージで上演されます。

開催：7月～8月

グラーフエネック音楽祭

食の楽しみ、歴史的な城と広大な風景庭園、「雲の塔」、世界に誇るコンサート・プログラムのすべてが組み合わさったグラーフエネック音楽祭は、すべての人の感覚を大いに楽しませてくれます。ルドルフ・ブッフピンダーが音楽監督を務め、世界の名だたるオーケストラや指揮者、ピアニストやソリストが出演します。

素敵な夜を締めくくる最良の方法は、城の敷地内のレストランで名シェフのディナーを楽しむことでしょう。賞を獲得したシェフのオーストリア料理と合わせて、近隣のワッハウ渓谷とカンプタール渓谷か、ワインの産地ヴァグラムの日当たりのよい丘陵地で作られたワインも味わってください。

開催：8月～9月

シュヴァルツェンベルク

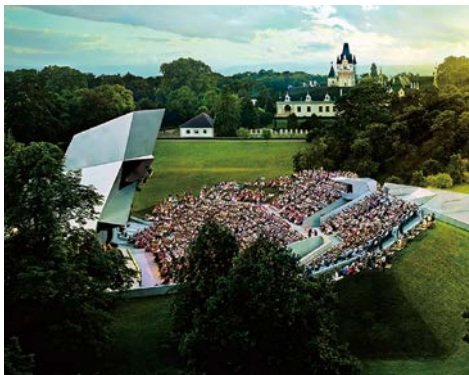
ホーエネムスのシューベルティアーデー

シューベルティアーデーは、40年以上の間、フォアアールベルク州で行われる世界最高峰のシューベルト音楽祭です。

2005年に改修され再オープンしたマルクス・シティクス・ホールをメイン会場とするホーエネムスと、典型的なブレゲンツの森地方の町シュヴァルツェンベルクが開催地です。青々としたアルプスの緑の牧草地や、広大な森とそれらを取り囲む岩山の環境の中にある、簡素な木造のアンゲリカ・カウフマン・ホールは、オーストリア国内で室内音楽に適した最高のホールの一つであると言われています。

開催：ホーエネムスで5月、6月、7月、10月
シュヴァルツェンベルクで6月、8月

※音楽祭の詳しい日程は、
www.austria.infoをご覧ください。



オーストリアの自然で リフレッシュ

豊かな緑の中、エメラルド色の湖畔で過ごすひととき。
自然の中で過ごす時間は、私たちの心と体を落ち着かせ、
気分をリフレッシュする効果をもたらします。
オーストリアの自然に引き寄せられるのはなぜでしょうか？



自然の中で時を過ごすことにより、私たちの気持ちは落ちつき、新しい視点が容易に見つかるようになります。どこまでも続く森や牧草地、湖やうねる丘陵など美しく連なるオーストリアの自然景観には、人の心に作用する不思議な力があります。オーストリアには旅人の心のバランスを回復させてくれる素晴らしい自然がたくさんあるのです。

自然が癒す休息の時間

それは太古の昔、原始の広々とした自然の真ん中で始まりました。最初は、草原地帯で…。それから、木々の下で…。洞窟の中で…。時代が移って火の周りで…。そこは人の感覚が発展した場所で、自然の中にいるのが当たり前でした。人は自然が好きなのです。何万年にも及び進化を遂げて来た私たちは、さまざまな自然の要素に囲まれ適合し、森の中は居心地が良いと感じます。今日の世界では、約束ごと、オフィス、日常的なデジタル過剰などの要素が邪魔しているかもしれませんが、私

たちの心に刻み込まれた「緑の記憶」は、確実に私たちの中に残っています。心に残っているからこそ、澄み切った湖水を見ると私たちは楽に呼吸ができるようになるし、木々の香りを嗅ぐと安心し、また、森の中を歩くと体に力がみなぎるのを感じます。

自然はストレスフルな心を癒してくれます。滝や木々のヒーリング効果、美しい景色や山々、川や湖など、オーストリアは宝石のような自然が溢れているので、生き活きとして官能的でリラックスした感覚を同時に得ることができます。

19 最高の水質で水遊び

美しく清潔なオーストリアの湖での湖水浴は環境、健康、観光にとって重要な要素です。2021年の欧州環境機関（EEA）によるEU水浴水質ランキングで、オーストリアは第1位となりました。

国内の水浴場261カ所のうち255カ所（97.7%）が「優良」に分類され、国内の全水域の合計99.2%が「優良」または「良」と評価されました。

それは、高い水質を保つために過去数十年間に500億ユーロの対策と投資を行ってきた成果と言えるでしょう。水面が透明、青色、エメラルド色で美しい湖のほとんどが、水質もEU基準で高い評価を得ていますので安心して水浴を楽しめます。



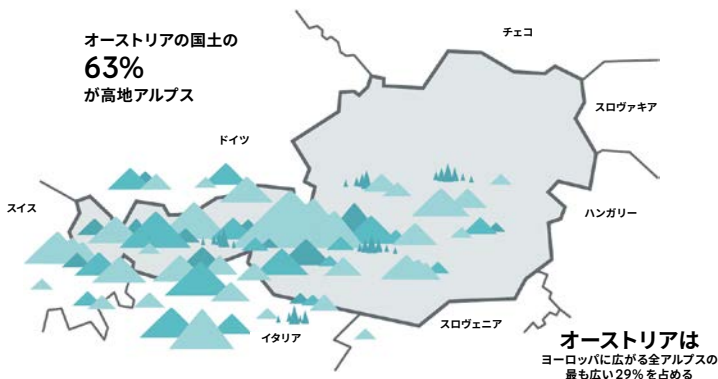
都市の緑のオアシス

都会と自然のリラクゼーションは矛盾していません。活気に満ちた都会のオアシスから革新的なグリーンプロジェクトまで、自然は都会でも常に存在する力の源です。例えば、ウィーンほど緑が多い大都市はありません。世界の100以上の大都市の中で、ウィーンは「2020年世界で最も緑の多い都市ベスト10」のランキングで第1位を受賞しました。オーストリアの音楽は有名ホールだけではなく、自然を満喫しながら音楽を楽しめるのが特長です。シェーンブルン宮殿を臨む広い庭園を舞台に行われる「サマーナイト・コンサート」では、ウィーン・フィルが世界最高レベルの演奏を披露します。緑の中で行われるこのイベントは2004年以来、既にウィーンの伝統となっています。この野外クラシックコ

ンサートは、ウィーン・フィルによる注目の年間行事のひとつです。同楽団が毎年元日に音楽を通じて新年の挨拶を世界に届ける、あのニューイヤーコンサートと肩を並べるイベントです。

また、1991年から続くウィーンの「音楽フィルムフェスティバル」は、ウィーン市庁舎とリング通りの間の緑あふれる広場で開かれ、旧市街での夏のイベントとしては特に人気です。今年も良い音楽とグルメを目当てに、大勢の人が市庁舎前広場に集まります。入場は無料です。

また、ウィーンからわずか西方に60km、19世紀の歴史主義の外観をもつグラフェネック城は、森と牧草地のあるロマンチックで広々とした公園の中に建っています。この美しい城と自然が織りなす夢のような環境の中、近代的な野外ステージで音楽に酔いしれる「グラフェネック音楽祭」もまた、都会と自然が融合したリラクゼーションと言えるでしょう（17ページ参照）。



人生の“愉しみ”を満喫する

オーストリア人は、人生を謳歌することに長けています。ここでは、人生を最高に楽しむために彼らが通う特別な場所を、いくつかご紹介しましょう。



ワイン居酒屋「ホイリゲ」

オーストリアは人生の楽しみ方をよく知っている国です。そして、ホイリゲはまさにオーストリアらしい居心地の良さを実感できる場所です。地元の人々はホイリゲに集い、ワイン醸造者が造った自慢の新酒と、美味しい家庭料理、自家製のベーコンやチーズなどに舌鼓を打ちます。テーブルには楽しい会話と笑い声があふれ、時が経つにつれて歌声が店内に響き渡ります。ホイリゲで楽しむ伝統は、少なくとも18世紀まで遡ることができます。それは、時の皇帝ヨーゼフ2世が、いつでも誰でも自家製のワインを販売し、供したりすることを許可する条例を施行した時代でした。ウィーン郊外のホイリゲ地区、ニーダーエステライヒ州、ブルゲンランド州とシュタイアマルク州のワイン産地で営業しています。

山小屋「アルムヒュッテ」

アルプスの牧草地に建つ山小屋は、元々、夏の間山の中腹の牧場で働く牛飼いや酪農従事者の住居でした。その後、山小屋はアルプス文化と人生の喜びを象徴するものとなりました。

典型的な板葺きの小屋では、訪れる旅行者やハイカーを親切なオーナーが温かく迎えてくれます。山小屋では、心尽くしの料理とサワー種黒パンが供され、楽しい会話とアルプス独特の魅力を味わうことができます。山小屋はアルプスのハイキングコースに沿ってあります。フォアアールベルク州、チロル州、ザルツブルク州などオーストリア西部に多く点在します。

地元の人が集まる居酒屋「バイスル」

オーストリアの温かさと居心地の良さを語る時、3つの場所が挙げられます。それは、カフェとワイン居酒屋、そして昔ながらの居酒屋「バイスル」です。典型的なバイスルの設えは、木製バーカウンターと木製の壁の羽目板、メニューを手書きした黒板を特徴としています。ウィーナー・シュニッツェルや団子料理、古典的な家庭料理がどこのバイスルでも味わえます。

地元で人気のバイスルは、オーストリア中どこにもあります。

ソーセージスタンド「ヴュルステルシュタント」

ここは単なる伝統的なスナック・バーではありません。仕事の合間にちょっと立ち寄って一息入れる大切な場所なのです。ここで、ケーゼクライナー（チーズ入りソーセージ）にマスタードを添え、パンと食べ、ウィットに富んだ、魅力ある店員と会話を楽します。当初、ヴュルステルシュタントは帝国時代に、退役した傷痍軍人たちに生計を立てる仕事を与えるために出現しました。伝説的なケーゼクライナーは、オーストリア人が創作したものです。ソーセージのレシピはスロヴェニアが起源ですが、それをオーストリアの食通が、ソーセージを焼いた時に溶けるチーズを加えて完成させた、手軽で美味しいご馳走なのです。ウィーンのソーセージスタンドが有名ですが、オーストリアのどの主要都市でも見られます。

ケラーガッセ・ワイン祭り

ワインの生産地域の夏のハイライトが、このワイン祭りです。この時期、人々はワインケラー（ワイン貯蔵所）が立ち並ぶ小路をそぞろ歩き、貯蔵所から貯蔵所へと渡り歩いて、それぞれのワイン醸造者が造った素晴らしい新酒と美味しい料理を味わって回ります。それに加えて、何世紀もの歴史を誇る、見渡す限り続くブドウ畑の風景は、見る者に活力を与えてくれます。

ワイン祭りは、オーストリアのワイン生産地の各地で行われています。特にニーダーエステライヒ州が有名です。



ビアガーデン/シャニガルテン

夏の暑い夜、人々に愛されている場所の一つが、国中どこにでもあるシャニガルテン（シャニとは、オーストリアのニックネームでヨハンの愛称）と呼ばれる屋外席です。仕事の後、オーストリア人はビアガーデンに立ち寄り、ニワトコの花から作ったホルンダージュースや、ビールで喉の渇きを癒します。店によっては、オリジナルのビールを醸造して提供しています。ここでは、普通のタベがささやかな祝杯の席へと変わり、ありふれた日常をしばし忘れさせてくれます。

ビアガーデンは、ザルツブルクが有名ですがオーストリア中どこにでもあります。

カフェ

ウィーンのカフェ文化は、オーストリア人が食通である事を証明する最適の例でしょう。ウィーンではカフェが、ユネスコにより無形文化遺産として認定されたほどです。その歴史は17世紀末まで遡ることができ、トルコ軍によるウィーンへの包囲攻撃と深い関わりがあります。代表的な古典的カフェのインテリアは、小さな大理石のテーブルに、トーマス・デザインの曲木製の椅子、ボックス席、新聞ラック、歴史主義的意匠の飾り付けを施した内装を特徴としています。そして、カフェで出される水も、オーストリアのカフェ文化を特徴づけています。また、世界で初めてお客様に新聞を提供したのはウィーンのカフェといわれています。

カフェは、オーストリア中どこにでもありますが、最も有名なのはやはりウィーンのカフェでしょう。

個性あふれる 9つの州

オーストリアは
個性あふれる9つの連邦州からなる共和国です。
各州にはそれぞれの魅力と特長があります。



ウィーン

オーストリアの首都ウィーンは古い伝統を持つハプスブルク帝国の都、音楽と芸術が輪舞する街。その一方で、近代的で未来を志向する建築物も多く、スタイリッシュなライフスタイルと活気のある文化の愉しみにあふれています。市の周囲には約1350km²にもおよぶ広大なウィーンの森が広がり、市民の憩いの場所となっていて、これは他のヨーロッパの大都市にはみられない独特の魅力です(26ページ参照)。

ブルゲンランド州

オーストリアの東端に位置する州。ここには世界遺産のノイジードラーゼー湖があり、野鳥の宝庫であるゼーヴィンケル国立公園も隣接しています。ルストなど、コウノトリがコロニーを作る農村やハンガリー風のエキゾチックな町が魅力。オペレッタ・フェスティバルで有名な湖畔の町メルビッシュ、サンクト・マルガレーテンの野外オペラなど音楽イベントも豊富です。また、良質でおいしいワインの産地としても知られています。州都はハイドンとエスターハージー侯爵家ゆかりの街アイゼンシュタット。

ニーダーエステライヒ州

ウィーンを囲むようにして広がる州。州東側の丘陵地帯は良質のワイン産地になっており、北部は森林におおわれています。バロック様式の修道院が建つメルクとクレムス間のロマンチックなドナウ川の渓谷は「ワッハウ渓谷」と呼ばれ、ユネスコ世界遺産にも登録されており、ニーダーエステライヒ州でいちばん人気のある休暇地となっています。州都はサンクト・ペルテン。

シュタイヤマルク州

森が豊かなことから「緑の州」とも呼ばれており、アルプスの大自然はもちろん、牧歌的な村の風景が美しい地域で、数多くの文化財を見ることができます。スロヴェニア国境の南シュタイヤマルク地域はワインの名産地として有名です。プッシェンシャンクと呼ばれるワイン生産者の直営店が点在しており、ワイン愛好家におすすめのルートです。一方、バート・アウスゼー周辺のザルトツカンマーゲートのシュタイヤマルク州側の部分は、美しい湖と山の景観によって、南部とは違った魅力を放っています。州都はグラーツ(43ページ参照)。

ケルンテン州

オーストリアの最南部にあるケルンテン州には、ヴェルターゼー湖、オシアツハゼー湖、ミルシュテッターゼー湖など、湖水浴のできる大きな湖があり、水泳や水上スポーツが楽しめるパラダイスとなっています。州の最北端にはオーストリア最高峰のグロースグロックナー山が秀麗な姿

を見せています。州都のクラゲンフルトは、バロックとユーゲントシュティール風の建物が建ち並び、芸術や文化の薫り高い見どころの多い古都です。

オーバーエステライヒ州

風光明媚な湖水地方ザルツカンマーグートは、オーバーエステライヒ州を中心に広がり、保養休暇を過ごすのに理想的な環境を提供します。皇帝フランツ・ヨーゼフ1世と皇妃「シシィ」はバート・イッシュルで何度も夏を過ごしました。州の北側の森の深いミュールフィアテルの丘陵地帯は、チェコとの国境を形成しており、訪れる人々を惹き付けます。州都のリッツは、音楽家ブルックナーゆかりの街として知られ、モダンなアルスエレクトロニカセンターやレントス美術館など、芸術探訪もおすすです。

ザルツブルク州

ザルツブルク州は、ハイカーや自然愛好家の憧れの場所となっているホーエ・タウエルン国立公園を含むアルプスの山岳地方。ザルツカンマーグートの大自然の美しさは映画『サウンド・オブ・ミュージック』でお馴染みです。ザルツブルクの名前の由来である「岩塩の城」を体験できるハラインの岩塩坑や、「きよこの夜」誕生の地オーベルンドルフ、世界一の氷穴があるヴェルフェンなども見どころです。州都はザルツブルク（36ページ参照）。

Google マップに「オーストリアのオススメ」リスト



オーストリア政府観光局では、地図アプリ「Google マップ」でオーストリアと、日本国内のオーストリア関連のオススメ場所を集めたリストを作成しました。気に入った場所は「自分のリスト」に保存できます。

情報がリアルタイムで更新されるので、現地での経路検索や、観光施設・飲食店などの営業状況の確認もできます。



チロル州

牧歌的な山の景色で知られるチロル州の文化の拠点は、インタール渓谷に数珠つなぎに存在します。インスブルック、ハル、ラッテンベルク、クーフシュタインなどの魅力的な町が点在します。また、ツィラータール、シュトゥーバイタール、エッツタールなどの渓谷、サンクト・アントンやゼーフェルトはハイカーやスキーヤー、そして休養を求める人々の理想郷として有名です。また、東チロルはザルツブルク州をはさんで離れたところに位置する自然の宝庫です。州都はインスブルック（48ページ参照）。

フォアアールベルク州

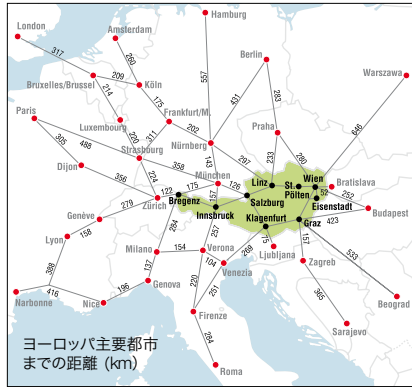
オーストリアの一番西に位置する州。面積は小さいながらも、シルヴレッタの氷河の世界からライン渓谷の平地にいたる、変化に富んだ自然が特徴です。州都ブレゲンツを有名にしているのが、世界最大のオペラ・フェスティバルの一つ、夏の「ブレゲンツ音楽祭」。個性豊かな湖上ステージは映画007のロケでも使われました。スキーやハイキングが盛んなアールベルク地方の村レヒは、世界のセレブが休暇を過ごす高級リゾート地で「ヨーロッパで最も美しい村」に選ばれました。

オーストリア地図 位置と距離

オーストリアは中央ヨーロッパの南部に位置し、国土の総面積は83,858平方キロメートル、人口は約910万人。公用語はドイツ語ですが、英語もよく通じます。



- アウトバーン
- - - - - 建設中のアウトバーン
- 高速道路
- - - - - 建設中の高速道路
- 幹線道路
- 主要道路
- その他道路
- 鉄道
- ✈ 国際空港
- 国境
- 州境



MAP © Ed. Hölzel, Wien

9つの州と州都



州都間の距離

(km)	ブレゲンツ	アイゼンシュタット	グラーツ	インスブルック	ラーゲンブルグ	リンツ	ザルツブルク	ザルトン	ウィーン
ブレゲンツ	—	769	700	187	575	547	429	656	720
アイゼンシュタット	769	—	183	582	307	232	347	113	65
グラーツ	700	183	—	513	133	215	255	190	210
インスブルック	187	582	513	—	377	360	242	469	533
ラーゲンブルグ	575	307	133	377	—	257	212	339	335
リンツ	547	232	215	360	257	—	118	121	185
ザルツブルク	429	347	255	242	212	118	—	230	294
ザルトン	656	113	190	469	339	121	230	—	65
ウィーン	720	65	210	533	335	185	294	65	—

ウィーンの見どころ

誰もが憧れる音楽と芸術の都ウィーン。
古くよりヨーロッパの東西と南部を結ぶ十字路として栄え、
いまま宮廷文化が華麗に息づきます。



古くよりヨーロッパの東西と南部を結ぶ十字路として、ウィーンは二千年の歴史に育まれてきました。ハプスブルク家が育んだ音楽と芸術の都として知られ、ハプスブルク帝国の重要な歴史的建築が見どころですが、最近ではモダンな現代建築、最新のデザインやファッションの発信地としても知られるようになりました。

シュテファン大聖堂 鮮やかな屋根が街並に花を添えるウィーンのシンボル。南北2つの塔からはウィーンの街が一望にでき、石造りの説教壇や祭壇を彩る絵画など荘厳な内部装飾は必見です。カタコンベ(地下墓地)には歴代皇帝の臓器が安置されています。

[MAP] P.33 B-3

シェーンブルン宮殿 ユネスコ世界遺産に指定されたハプスブルク家の夏の宮殿。マリア・テレジア・イエローで彩られた外観が印象的。ロココ様式で統一された内部には、1441の部屋があり、そのうち40室が公開されています。ウィーン会議の際に舞踏会場として使用された大広間、6歳のモーツァルトが御前演奏した鏡の間は必見です。

宮殿の後方に広がる庭園は面積1.7km²。シェーンブルン(美しい泉)の名前の由来となった泉、1752年に設立され、現存する世界最古の動物園、大温室パルメンハウス、ネプチューンの噴水、迷路庭園、日本庭園があります。ギリシャ風の神殿グロリエッタの中にはカフェがあり、また、宮殿に隣接する馬車博物館には歴代の皇帝たちが使用した豪華な馬車が展示されています。

www.schoenbrunn.at

ベルヴェデーレ宮殿 バロック宮殿の最高傑作に数えられるベルヴェデーレ宮殿は、ヨハン・ルーカス・フォン・ヒルデブラントが設計。対トルコ戦争の時代、ハプスブルク軍の総司令官であったサヴォイ家のオイゲン公(1663～1736)が夏の離宮として



いました。式典用の上宮と居

住用の下宮からなり、その間には緩やかに傾斜したバロック庭園があります。

上宮のオーストリア・ギャラリーには、クリムト、シーレなどユークラントシュティール、ピーダーマイヤー、歴史主義などの名画が多く、下宮にはバロック美術の名作が展示されています。2023年は上宮建設300周年を迎える記念の年となります。6～7ページに特集記事を掲載していますので、ご覧ください。

[MAP] P.33 D-3,4 www.belvedere.at

リング通り 19世紀の中頃、ウィーンの旧市街を取り囲んでいた城壁を皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の命により取り壊し、現在の幅広い環状道路が作られました。この通りに沿って、公園、国会議事堂、市庁舎、大学、ブルク劇場、国立歌劇場、美術史／自然史博物館、王宮などが、まるで建築図鑑のように立ち並んでいます。

[MAP] P.32,33 A,B,C-2,3,4

公園と庭園

市立公園(シュタットパーク)は、1862年にウィーン市立第一号の公園としてオープンしました。園内には有名なヨハン・シュトラウスの記念像やシューベルト、ブルックナー像があり、クアサロンではコンサート&ディナーが楽しめます。

[MAP] P.33 C-3,4

市民庭園(フォルクスガルテン)は、美しいバラ園が見どころで、伝説的の皇妃シシの記念碑がシンボルです。

[MAP] P.32 B-2

王宮庭園(ブルクガルテン)は、有名なモーツァルト記念碑がある英国様式の庭園です。皇帝フランツ・ヨーゼフ1世のプライベートな庭園でしたが、死後3年たった1919年に一般に開放されました。ここにはフリードリヒ・オーマン設計の世紀末様式の美しい温室(パルメンハウス)があります。温室内には蝶の家があり、何百ものエキゾチックな南国の蝶が飛び交います。エレガントな雰囲気のカフェ・レストランも営業しています。

[MAP] P.32 C-2

ホーフブルク王宮 ハプスブルク家の皇族が住居として使用していた居城。帝国の発展に伴い増改築が繰り返され、各時代の建築様式が共存する建物となっています。旧王宮ではシシ博物館と皇帝の住居を公開しています。銀器コレクションも見事です。新王宮にはウィーン世界博物館があり、日本の展示もあります。また、隣接する王宮庭園には有名なモーツァルト像があり、絶好の写真スポットとなっています。

王宮宝物館では、ハプスブルク家の栄光を伝える財宝と、教会の財宝の数々を集めた類い希なコレクションが展示されています。聖遺物の数々、ミサに用いられる豪華な祭服や祭具のほか、10世紀に制作された神聖ローマ帝国の帝冠と権標、オーストリア皇帝の冠、ブルグント公国の財宝、金羊毛皮騎士団の財宝などが展示されています。

[MAP] P.32 C-2 www.hofburg-wien.at



市庁舎 (ラートハウス) 1872年から1883年にかけて造られたネオゴシック様式の建築。手前の市庁舎前広場は各種イベント会場となります。夏には音楽フィルムフェスティバル、11月中旬～12月26日はクリスマスマーケットが開催され、11～3月はスケートリンクが設置されます。

[MAP] P.32 B-2

スペイン式宮廷馬術学校 世界で最も美しいバロック様式の乗馬ホールは、巨匠フィッシャー・フォン・エルラッハの設計によるもので、皇帝カール6世時代の1729～35年に建てられました。16世紀から17世紀にかけて世界帝国を築いたハプスブルク家は、オーストリア・ハプスブルク家とスペイン・ハプスブルク家に分かれ、1700年にスペイン・ハプスブルク家が断絶するまで、イベリア半島から多くのアンダルシア馬が導入され、今日のリピッター種が確立されました。「スペイン」の名はこの史実に由来します。厩宮(シュタールブルク)にはリピッター博物館があります。

[MAP] P.32 C-2 www.srs.at

国会議事堂 (パラメント) 威風堂々としたギリシャ神殿風の建物で、正面にはアテネの泉、知恵の女神が立っています。1873年から1883年にかけて、ウィーン楽友協会の会館も手掛けたハンセンの設計で建てられました。ガイドツアーもあります。

[MAP] P.32 B-2

ケルトナー通り シュテファン大聖堂から南に延び、国立歌劇場まで続く最も賑やかな歩行者専用の大通り。高級店から人気ブランド店、カフェが並び、いつも街頭ミュージシャンが演奏しています。

[MAP] P.33 C-3

モーツァルトが暮らしたアパートを訪ねる モーツァルトハウス・ヴィエナ



シュテファン大聖堂のすぐ近くに、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトの人生において最も重要な場所のひとつとなった歴史的なアパートが建っています。ここにモーツァルトは1784年から1787年まで暮らし、その間にオペラ「フィガロの結婚」を始め、数々の最高傑作を生み出しました。モーツァルトはウィーンで暮らした10年間に13回引越しましたが、ドームガッセ5番地の建物は、ウィーンにおいて現存する唯一のモーツァルトのアパートです。

モーツァルトはこの家の2階に住んでいました。4つの大きな部屋と2つの小部屋、そしてキッチンからなり、モーツァルトが住んだアパートの中で最も大きく、最も優雅で、最も高価なものでした。展示ではこの偉大な作曲家がウィーンで暮らした時代と、主要な作品が分かりやすく紹介され、現在モーツァルトの重要な博物館となっています。

開館時間：月曜を除く毎日
午前10時から午後6時まで

モーツァルトハウス・ヴィエナ
Mozarthaus Vienna
Domgasse 5, A-1010 Wien
info@mozarthausvienna.at
www.mozarthausvienna.at



自然史博物館 先史時代からの動物、植物、鉱物やハルシュタット文化時代の出土品、約2万5千年前の「ヴィンドルフのヴィーナス」像、マリア・テレジアの「宝石の花束」などが有名です。

MAP P.32 C-2

プラーター ドナウ運河とドナウ本流の間に広がるプラーターは、遊園地、スポーツ施設、緑地をもつウィーン市民老若男女の憩いの場所です。大人にも子どもにも人気の高い大観覧車やミニ列車をお楽しみください。

MAP P.33 A-4

ウィーン国立歌劇場 1861年から1869年にかけて宮廷オペラ劇場として建てられました。1945年に戦災を受けましたが修復され、1955年カール・ベームが指揮するベートーヴェンの『フィデリオ』で再開されました。館内のガイドツアーがあります。

MAP P.33 C-3

www.wiener-staatsoper.at

カールス教会 マリア・テレジアの父カール6世が、当時流行したペストの終息を祈願して1716年～1739年建立した教会です。バロック建築の巨匠エルラッハ父子の設計です。その右側にはウィーン博物館カールスプラッツがあり、2023年12月に大規模な改装が終わり、再オープンします。

MAP P.33 D-3

美術史博物館 ハプスブルク家が収集した約40万点の美術品を所蔵。絵画ギャラリーのコレクションはルーベンス、レンブラント、デューラー、ティツィアーノ、ペラスケスと広範にわたり、中でもブリュゲルのコレクションは豊富で、「農民の婚礼」を始め主要作品のほとんどがここに展示されています。また、クントカンマー（美術工芸館）では2200点もの魅惑的な美術作品が鑑賞できます。館内の美しいカフェは芸術的雰囲気がいとおすすすめ。

MAP P.32 C-2 www.khm.at

ドナウ運河 シュヴェーデンプラッツにはドナウ定期観光船発着場やカフェ、レストランがあります。ドナウ本流はここより東約3km行ったところです。

MAP P.33 A-3, B-3, C-4

マリアヒルファー通り ウィーンっ子に一番人気の約2km(ミュージアム通り/ゲトライデマルクト～西駅間)のショッピング街。ウィーンでは数少ない日本式デパートもあります。地下鉄U3。

MAP P.32 D-1, C-2



ウィーン・モダニズムの先駆者 クリムトとシーレ

19世紀末に興ったヨーロッパの芸術文化を指すアール・ヌーヴォーは、オーストリアでは「ユーゲントシュティール」と呼ばれています。「時代にはその芸術を。芸術には自由を」をモットーに、19世紀末のウィーンにはグスタフ・クリムトを筆頭に、コロマン・モーザー、オットー・ワーグナーなど偉大な芸術家たちが登場しました。

オーストリアを代表する画家グスタフ・クリムトは、1880年代初頭、弟のエルンストと友人フランツ・マツチュの3人で芸術家商会「キュンストラーカンパニー」を設立し、オーストリア＝ハンガリー帝国全土にわたる数多くの建物の壁画と天井画の制作を委託されます。その後、保守的な美術家協会を脱退し、「セセッション（分離派）」の名のもとに、新しい芸術家グループを結成。また、才能溢れる若き芸術家たちの後援者として確固たる地位を築きます。

いまもクリムトが手掛けた歴史主義時代の壁画は、ブルク劇場や美術史博物館の階段ホールなどで見ることができます。代表作の絵画『接吻』（ベルヴェデーレ宮殿）や『死と生』（レオポルド美術館）、分離派会館の壁画『ペートル・ヴェン・フリース』は世界中の人々に親しまれています。

ハプスブルク家コレクションの宝庫 ウィーン美術史博物館



壮麗なミュージアムは皇帝フランツ・ヨーゼフ1世によって、膨大な皇帝コレクションを収蔵するために建設され、世界で最も重要な博物館の一つです。古代エジプト、古典古代から18世紀後半まで、5千年にわたる美術品は、芸術を愛するハプスブルク家の人々の庇護と目利きを物語るものです。絵画では、ルーベンス、レンブラント、ラファエロ、フェルメール、ベラスケス、ティツィアーノ、デューラーの名作を始め、ブリュゲルの世界最大のコレクションが並びます。興味深い特別展も開催されています。

クンストカンマーでは、ベンヴェヌート・チェリーニの有名なサリエラなどの金細工の作品、彫刻の傑作、象牙のフィリグリー細工、貴重な時計等、美術史上比類のないものが展示されています。また、グスタフ・クリムトが共同制作した一連の壁画が並ぶ堂々たる階段の間も、美術愛好家には見逃せません。

ウィーン美術史博物館
Kunsthistorisches
Museum Wien
Maria-Theresien-Platz
A-1010 Wien
booking.tourist@khm.at
www.khm.at

一方、エゴン・シーレは学校時代から授業中にいつも絵ばかり描いていて、決して成績の良い生徒ではありませんでした。しかし、美術教師だ

けは彼の才能を認め、造形美術アカデミーに進学できるように力を貸し、16歳のとき入学が認められました。

ウィーンでシーレはグスタフ・クリムトと知り合い、次第にクリムトの影響を大きく受けることになります。その後、わずか2年でシーレは超保守的なアカデミーを去り、芸術的功績を模索するため、友人たちと「新たな芸術団」を結成し、リーダーを務めました。

シーレは常に良い友人や後援者に恵まれ、仕事の依頼も多く得ていました。一般的にはシーレの画は前衛的でユニークで、挑戦的と評価されていました。その神経質で粗い線によ



り肉体的な特徴が誇張され、精神状態の不安定さ、表現主義における脆さが明確に表れていました。彼の美しいとはいえない裸の絵やスケッチはエロチシズムというより、むしろ運命や悲劇を感じさせるものでした。

1918年、シーレと妻エーディットはスペイン風邪にかかり、妻の死後、彼も3日後に死亡、享年28歳の若さでした。数か月先まで生きていれば、ウィーン分離派館で開催された特別展覧会でシーレの絵画は国際的に華しい評価を得、大きなブームを呼ぶことになったのを知ることができたでしょう。

シーレの作品は、主にウィーンのリオポルド美術館で見ることができます。

世界最大のエゴン・シーレのコレクション レオポルド美術館



ウィーンのリオポルド美術館は、オーストリア美術のモダニズム初期の最も卓越した作品のコレクションを所蔵しています。創設者ルドルフ・レオポルドは1994年に、50年以上の歳月をかけて蒐集したプライベート・コレクションを展示する美術館を設立しました。その後、2001年に美術館複合体のMQへ移転しました。中心をなすのは世界最大のエゴン・シーレのコレクションです。さらには、グスタフ・クリムトの絵画コレクションがあり、その中にはクリムトの傑作の一つ「死と生」があります。これらの作品は、1900年代のウィーンというテーマ

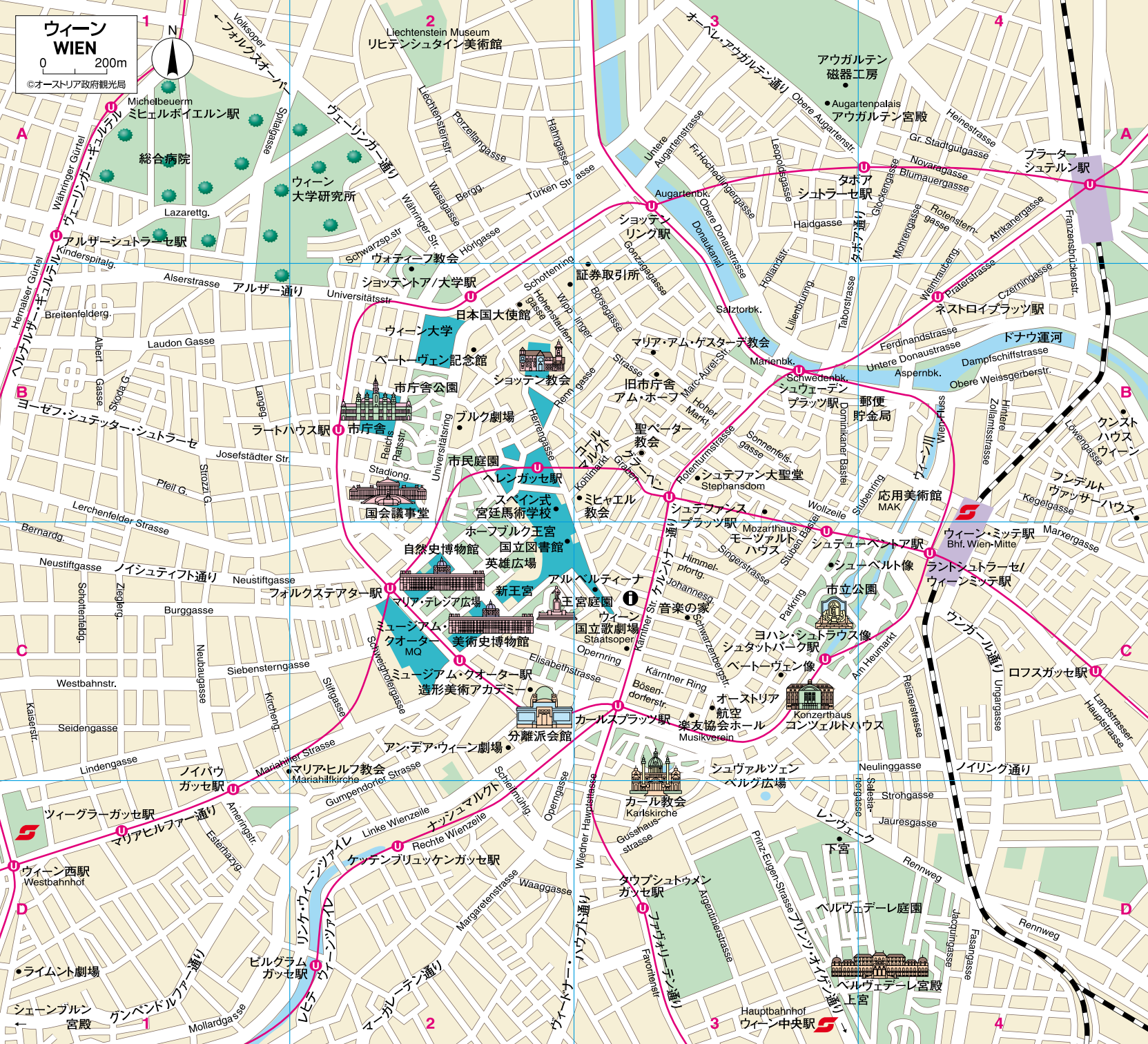
の下に展示されています。コロマン・モーザーとヨーゼフ・ホフマンの「芸術と工芸」の作品群では、この時代にはいかにデザインが重要であったかがわかります。また、表現主義のパイオニア、リヒャルト・ゲルストルとオスカー・ココシュカの作品のほか、1918年から1938年のオーストリア・アートに関する膨大なコレクションを鑑賞することができます。

レオポルド美術館
Leopold Museum
MuseumsQuartier,
Museumsplatz 1,
A-1010 Wien
tourismus@leopoldmuseum.org
www.leopoldmuseum.org

ウィーン
WIEN

0 200m

©オーストリア政府観光局



2
Lichtenstein Museum
リヒテンシュタイン美術館

アウガルテン
磁器工房
Augartenpalais
アウガルテン宮殿

Michelbeuern
ミヒェルボイエルン駅
総合病院

ウィーン
大学研究所

ヴォーティフ教会
ジョツェントア/大学駅

ウィーン大学
ベートーヴェン記念館

市庁舎公園
市庁舎

ラートハウス駅
市庁舎

国会議事堂
国会議事堂

フォルクステアター駅
新王宮

ミュージアム・クォーター
MO

ミュージアム・クォーター駅
造形美術アカデミー

アン・デア・ウィーン劇場
分館派会館

マリヤヒルフ教会
Mariahilf Kirche

ツィーグラウガッセ駅
マリヤヒルフアール通り

ウィーン西駅
Westbahnhof

ライムント劇場
シェーンブルン宮殿

日本国大使館
シヨツテン教会

ブルク劇場
市民庭園

スペイン式
宮廷馬術学校

ホーフブルク王宮
国立図書館

自然史博物館
英雄広場

ベルティーナ
宮庭園

ウィーン
国立歌劇場
Staatsoper

オペリング
分館派会館

カール教会
Karlskirche

タウプシュトヴェン
ガッセ駅

ヘルヴェデーレ庭園
ヘルヴェデーレ宮殿

ヘルヴェデーレ上宮

3
オーペレ・アウガルテン通り
Obere Augartenstr.

シヨツテン
リング駅

証券取引所
シヨツテン教会

マリア・アム・ゲスターネ教会
旧市庁舎

アム・ホーフ
聖ペーター教会

ミヒェル
教会

シュテファン大聖堂
Stephansdom

プラツツ駅
モーツァルトハウス

シュテファン
大聖堂

シュテファン大聖堂
Stephansdom

シュテファン大聖堂
Stephansdom

シュテファン大聖堂
Stephansdom

シュテファン大聖堂
Stephansdom

シュテファン大聖堂
Stephansdom

シュテファン大聖堂
Stephansdom

4
ノヴァラガッセ
Novaragasse

タボラ
シュトラッセ駅

郵便
貯金局

シュウェーデン
プラツツ駅

シュウェーデン
プラツツ駅

シュウェーデン
プラツツ駅

シュウェーデン
プラツツ駅

シュウェーデン
プラツツ駅

シュウェーデン
プラツツ駅

シュウェーデン
プラツツ駅

シュウェーデン
プラツツ駅

シュウェーデン
プラツツ駅

シュウェーデン
プラツツ駅

シュウェーデン
プラツツ駅

シュウェーデン
プラツツ駅

4
ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

4
ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

4
ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ノヴァラガッセ
Novaragasse

ウィーンの 郊外へ

森を歩きワインを味わうウィーンの森、
ドナウ川クルーズのハイライト、ワッハウ渓谷。
そしてハイドンゆかりのアイゼンシュタットへ。



ウィーンの森

ウィーンの東部を除く北・西・南をぐるりと取り巻くウィーンの森は、市街地の3倍ほどの面積、約1350km²の広さを持っています。アルプス山脈の一部をなしている豊かな丘陵地帯とドナウ川の河畔地帯にはブドウ畑が広がり、ベートーヴェンやシューベルトゆかりの歴史ある町々が点在しています。

グリーンツィングは、ウィーン市内ながらホイリゲ(ワインの居酒屋)が何軒も並ぶワインの産地。シュランメル音楽を聴きながら新酒のワインを楽しむのは、ウィーンならではの夜の過ごし方です。ハイリゲンシュタットはベートーヴェンゆかりの地で、博物館や住居、記念像が点在し、田園交響曲の構想を得たベートーヴェンの小路も残っています。プファール広場の住居は、ホイリゲになっています。**アクセス:** グリーンツィングへはショツtentアから市電38で終点まで約30分。ハイリゲンシュタットのベートーヴェン博物館へは、ショツtentアから市電37を終点で降り、徒歩5分。

バーデン・バイ・ウィーン

ウィーンから南に20km、ウィーン郊外の温泉保養地バーデン・バイ・ウィーンは、古くはローマ時代から温泉が利用されていました。ウィーンの森南部一帯には、温泉地や名高いホイリゲの名所、趣深い史跡などが交錯します。19世紀初頭に皇帝フランツ・ヨーゼフ1世が夏の滞在地として以来、バーデン・バイ・ウィーンは急速な発展を見せました。19世紀末には、ウィーンの上流階級、国内外の王侯貴族や芸術家などのサロンとなりました。市内には清楚で優雅なビーダーマイヤー時代の家並みが残り、当時の面影が今も漂います。広大な公園「クアパーク」では、花と緑の中にハプスブルク家の人々をはじめ、モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルト、ランナー、シュトラウス、ミレッカーなど数多くの記念碑が立っています。

2021年7月、「欧州の大温泉保養地」のひとつとしてユネスコ世界文化遺産に登録されました。

ワッハウ渓谷

ドイツの黒い森を起点に、オーストリアや東欧を抜け黒海まで続くドナウ川。全長約2800kmにもおよぶこの大河の一番の見どころは、メルクからクレムスにいたる世界遺産のワッハウ渓谷。その魅力を存分に楽しみたいのなら、ドナウ川クルーズがおす

めです。ウィーン中央駅から準急列車で約1時間、パステル色の家並みが美しいメルクの町から出発します。メルク修道院を見学してからクルーズへ。

丘陵に広がるブドウ畑や壮麗な古城などが目の前に迫ってきます。川沿いにはリースリングという白ワインの産地ヴァイセンキルヒェンやシュピッツ、中世都市デュルンシュタインなど見どころもたくさん。終点のクレムスの対岸の丘にはゲットヴァイク修道院がそびえています。

運航期間：クルーズ船の運航期間は4月上旬～10月末まで。それ以外の期間は、メルクやデュルンシュタイン、クレムスの町々を列車で訪ねます。ウィーンからは便利な観光バスも出ています。



アイゼンシュタット

ハンガリーと国境を接するブルゲンランド州の州都アイゼンシュタットは、ウィーンの南約55kmにあり、車で45分、バスで1時間ほどの落ち着いた瀟洒な小都市です。ここはハイドンの主君として知られる大貴族エステルハージー侯の城下町でした。エステルハージー宮殿、ハイドン博物館、ハイドン教会とも言われているバルク教会、マルティン聖堂が主な観光スポットです。

1766～1778年にハイドンが住んだ家は、現在ハイドン博物館となっており、大作曲家の遺品や絵画、楽譜、当時のピアノなどが展示されています。ハイドンの生家はアイゼンシュタットから近いライタ川沿いの村ローラウにあり、こちらも記念館として一般公開されています。

近郊には、ユネスコ世界遺産のノイジードラーゼー湖、湖上オペレッタで有名なメルピッシュ、コウノトリのコロニーで知られるルスト、フランツ・リストの生家があるライディングがあります。



ザルツブルクの 見どころ

モーツァルトの生誕地で
『サウンド・オブ・ミュージック』の舞台。
世界で最も美しい都市の一つ。



ザルツブルクは、モーツァルトの故郷、『サウンド・オブ・ミュージック』の舞台として知られ、世界で最も美しい都市のひとつに数えられる古都で、ユネスコ世界文化遺産にも登録されています。

ホーエンザルツブルク城 メンヒスベルク山の上にそびえ立つ町のシンボル。中世の城塞建築としては中部ヨーロッパで最も良く保存されているものの一つです。豪華な装飾で彩られた大司教の居間や黄金の間は圧巻。「ザルツブルクの雄牛」と呼ばれる大オルガンがあり、モーツァルトの城塞コンサートも開催されています。博物館には昔の武具や工芸品などが展示されており、日本語音声ガイドもあります。テラスからはアルプスの山並みと市街のパノラマが楽しめます。

[MAP] P.37 B-2

www.festung-salzburg.at

メンヒスベルク ザルツァッハ川沿いに南西に伸びるメンヒスベルクは、ザルツブルク市民の憩いの山。春にはブナやカエデ、菩提樹、檜などの様々な木々が、メンヒスベルク全体にやわらかな新緑の輝きを放ち、夏には燃えるような色とりどりの葉の海が広がります。歩いて登るルート、階段を経由するルートなど、東西南北あらゆる方向から行けるメンヒスベルクですが、最も快適な方法はメンヒスベルク・エレベーターです。以前は岩壁の外側に設置されていましたが、今では山の中を通して上のように造られています。このエレベーターを利用すると山頂にはザルツブルク現代美術館があり、古典モダニズムに関する展示を鑑賞することができます。

大きなテラスと素晴らしい眺め的高级レストラン「M 32」や「ホテル・シュロス・メンヒシュタイン」、お腹を空かせたハイカーたちに人気のソーセージ屋台「ピュッフエ・ツァ・リヒターヘーエ」、伝統的なオーストリア料理を堪能できる「シュタットアルム」など、グルメを楽しめる食事処が満載です。

[MAP] P.37 A-1, B-1,2

ミラベル庭園／宮殿 風光明媚なこの庭園では、ザルツァッハ川越しに旧市街のホーエンザルツブルク城とドームや数々の教会の尖塔の美しい姿を眺望することができます。ギリシャ神話を題材

にした石像、水しぶきが輝く噴水、色彩豊かな花々などが、訪れる人々を魅了します。園内のほぼ中央に位置するミラベル宮殿は、大司教ヴォルフ・ディートリッヒが愛人サロメ・アルトのために建てた別荘です。内部の大理石の間は、室内楽コンサートや結婚式など催し物の会場として使用されています。

MAP P.37 A-1



ドーム (大聖堂) バロック様式とローマ風の建築様式が見事に調和した華麗な教会。大司教マルクス・シティクスのもとで建築家ソラーリによって1614年に建設が開始され、1628年に完成しました。モーツァルトが洗礼を受け、カラヤンの告別式が行われたことでも知られます。約6000本のパイプからなるパイプオルガン、ドーム博物館が見どころ。正面のドーム広場では毎年夏、ザルツブルク音楽祭の恒例演目『イエーダーマン』が上演されます。

MAP P.37 B-2





モーツァルトの生家 1756年、旧市街一番の目抜き通りであるゲトライデガッセ通り9番地で、モーツァルトは誕生しました。色鮮やかな黄色い建物は現在、記念館として一般に公開されています。モーツァルトが使用していた子供用バイオリン、コンサート用バイオリン、ピアノ、モーツァルト家の肖像画と書簡などが展示されています。

[MAP] P.37 B-2

www.mozarteum.at

ゲトライデガッセ通り 15世紀建築の市庁舎、中世以来のギルドの伝統を受け継ぐ様々な形をした鉄細工の看板が楽しい、独特の雰囲気を出すショッピングストリート。世界で最も美しい通りの一つに数えられるでしょう。この通りには、買い物にもウインドウ・ショッピングにも楽しい様々なお店が多数軒を並べています。年中旅行者の姿が絶えません。

[MAP] P.37 B-1,2

サント・ペーター修道院 オーストリア最古のベネディクト派修道院。映画『サウンド・オブ・ミュージック』にも登場しました。修道院内を飾る装飾品の数々は、宗教芸術として価値の高いものばかり。裏手に広がる墓地には、モーツァルトの姉のナンネルや旧友ミハエル・ハイドンが眠っているほか、初期キリスト教徒の祈祷のための洞窟「カタコンベ」は必見です。

[MAP] P.37 B-2

レジデンツ 歴代大司教の宮殿で、豪華な内部はガイドツアーで見学できます。レジデンツ広場の中央を飾る大噴水は、アルプス以北で最も美しいバロック噴水のひとつとされます。この広場では9月のルーペルト祭やクリスマス市など、様々な催し物が行われます。

[MAP] P.37 B-2

www.residenz-salzburg.at

ザルツブルクのドームクォーター ドーム（大聖堂）、サント・ペーター修道院、レジデンツなどを含む旧市街の見どころを巡るドームクォーターは、17世紀に造られた回廊を通って見学することができる美術館巡回コースです。200年前と同様に重要な建物を繋ぐ回廊は美術館を超える見応えで、訪問者の知的好奇心を満たします。

この巡回コースにより、街を取り囲む丘陵の魅力あふれる新たな眺望と、素晴らしい建築物を一度に見ることができます。バロック様式を代表する建築物の素晴らしい部屋の数々と、2000点ものバロック美術品を堪能することができます。

通行時間: 火曜日を除き、毎日午前10時～午後5時まで、7月～8月は毎日

[MAP] P.37 B-2

www.domquartier.at



マリオンネット劇場 モーツァルト、シュトラウス等の有名なオペラや『くるみ割り人形』等のバレエが高度な技術によって演じられる人形劇。国際的にも人気が高い人形劇場です。

[MAP] P.37 A-2

www.marionetten.at

モーツァルテウム 1914年設立された国際財団法人で、音楽院とコンサートホールを備え、サマーアカデミーが開催されています。庭園にある「魔笛の家」はウィーンから

移築されたもので、1791年この家でモーツァルトは『魔笛』を完成しました。魔笛の家は内部見学不可。

[MAP] P.37 A-2

www.mozarteum.at

グロツケンシュピール 1702年に造られた、レジデントの反対側にある新レジデントの鐘楼。音程の異なる35個の鐘がついており、毎日7時、11時、18時に美しく鳴り響きます。

[MAP] P.37 B-2

祝祭劇場 大司教の廬舎を1926～28年に建築家クレメンス・ホルツマイスターが祝祭小劇場に改築、その後1956～60年にかけて再度ホルツマイスターによって大劇場が増築されました。2006年のモーツァルトイヤーには小劇場が改築され、「ハウス・フュア・モーツァルト（モーツァルト劇場）」へと生まれ変わりました。夏のザルツブルク音楽祭のメイン会場としてよく知られています。また、映画『サウンド・オブ・ミュージック』の舞台ともなったフェルゼンライトシューレや祝祭大劇場の内部を、約1時間かけて見学するガイドツアーも実施されています。

[MAP] P.37 B-1

www.salzburgfestival.at

マカルト広場のモーツァルト住居 モーツァルトが故郷ザルツブルクを捨てウィーンに向かうまでの7年間（1773年～1780年）を過ごした家。現在はモーツァルト一家の博物館になっています。日本語解説あり。

[MAP] P.37 A-2

ザルツブルク名物のビールを飲む！

ザルツブルクは600年以上前からビールを醸造しているのをご存知ですか？ 最初の商業的なビール醸造所が生まれたのは14世紀末のことで、最も古い伝統的なビール醸造所のうち、シュティーグルブロイとアウグスティナー・ブロイが現存しています。伝承された知識と技術のもとに作られた味わい深いザルツブルクのビールをお楽しみください。





ヘルブルン宮殿 旧市街から南へ7km、大司教マルクス・シティクスが作らせた宮殿です。見事なバロック庭園には水を利用した様々な愉快な仕掛けが施されています。思いがけない所から水が飛び出し、訪問者の歓声が絶えません。水力で動くミニ人形劇場もあります。4～11月オープン。

アクセス:市内からバス25番で20分

www.hellbrunn.at

レッドブル・ハンガー7 ザルツブルク空港には、7番目の格納庫と呼ばれる貝殻のような形をしたガラス張りの超近代的な建物があります。使用した1754個のガラスパネルは飛行機の発着によるどんな振動にも耐えられるよう設計されており、内部はレッドブルのエクストリームスポーツで活躍するF-1マシンや航空機などが展示されています。併設のレストラン「イカルス」は、ザルツブルクを代表する美食のスポットです。

www.hanger-7.com

FOTO © Salzburg Tourismus GesmbH



© Tourismus Salzburg, Foto: Breilagger Günter

www.salzburg.info/jp



バロックの都、音楽の街ザルツブルクは年間を通じ4,500ものハイレベルな文化イベントを開催し、世界中の人々に感動を与えています。街の魅力を満喫するには**ザルツブルクカード**がお勧めです。

24時間、48時間、72時間の3種類があり、博物館など観光名所の入場無料、市内交通機関が乗り放題の他、多くの特典があり、大変便利でお得、しかも環境にやさしいカードです。オンラインで予約し旅行前に入手すれば、駅から町の中心まで行くバスから利用できて便利です。

2023年1/1～4/30、11/1～12/31	大人	子供(6～15歳)
24時間	€ 27.00	€ 13.50
48時間	€ 35.00	€ 17.50
72時間	€ 40.00	€ 20.00

2023年5/1～10/31	大人	子供(6～15歳)
24時間	€ 30.00	€ 15.00
48時間	€ 39.00	€ 19.50
72時間	€ 45.00	€ 22.50

ザルツブルク市観光局

Salzburg Information · 5020 Salzburg · Austria
Tel. +43/662/88987-0 · Fax +43/662/88987-32
tourist@salzburg.info

SALZBURG
Stage of the World

ザルツブルクの 郊外へ

オーストリア屈指の景観を誇る
ザルツカンマーグートと国内最高峰グロースグロックナー、
中欧最大のホーエ・タウエルン国立公園へ。



ザルツカンマーグート

ザルツブルクの東に広がるザルツカンマーグートはオーストリア屈指の景勝地として知られています。1500～2000m級の山々に抱かれた高原内に、大小約50の湖が宝石のようにちりばめられている湖水地帯。この素晴らしい絶景は映画『サウンド・オブ・ミュージック』でも紹介され、多くの人々の心にも残っています。マーラーやクリムトなど、音楽家や芸術家にも愛された地域です。

15世紀の古城（現在ホテル）が美しい姿を水面に映してたたずむ「フッシュルゼー湖」、この地方の中で最も美しいといわれている湖「ヴォルフガングゼー湖」の湖畔の町サント・ギルゲンは、リゾート地として人気の高いモーツァルトゆかりの地。対岸のサント・ヴォルフガングの町はオペレッタ『白馬亭にて』の舞台となったホテルが残る有名な町でシャーフベルク山へ上る登山鉄道も人気です。『サウンド・オブ・ミュージック』の結婚式の舞台となった教区教会がある「モントゼー湖」、レハールやブラームスゆかりの温泉地で皇帝の別荘カイザーヴィラがある「パート・イッ

シュル」、ユネスコ世界遺産に登録されている「ハルシュタットとダッハシュタイン地域」、クリムトゆかりのアッターゼー湖など、魅力的な湖や町が点在します。

アクセス：ザルツブルクからパート・イッシュルまでバスで約1時間30分。ここからサント・ヴォルフガングまではバスで約30分。ザルツブルクから列車でパート・イッシュルやハルシュタットへ行く場合は、アットナング・プッフハイムで乗り換えます。

グロースグロックナー

標高3798m オーストリアの最高峰のグロースグロックナーは、初登頂以来200年以上経った今でも、数多くの神話と伝説があることでも知られています。グロースグロックナーの名称の由来については、山の形が鐘（グロック）に似ていたからだとする説、あるいは金の発掘（ゴルト・クロッケン）に関係があるという説などがあります。

いずれにせよ、グロースグロックナーは大変魅力ある山で、今も昔も多くの人々を惹きつけ、オーストリア皇帝もその一人でした。

ザンチン帝国の官吏が、この地の寒さで行き倒れになり、この人物と聖血のために教会が献堂され、それ以来、この村は巡礼地となりました。

ホーエ・タウエルン 国立公園

中央ヨーロッパ最大のホーエ・タウエルン国立公園は、ケルンテン州、チロル州、ザ



1856年、皇帝フランツ・ヨーゼフ1世は皇妃エリザベート（シシィ）とともに、この山の氷河を見物に訪れました。ハイリゲンブルートから4時間かけてひとつの鞍部に達し、ここが「フランツ・ヨーゼフス・ヘーエ」と呼ばれるようになりました。皇帝はこの場所に2時間以上とどまり、オーストリア最大の長さ9.4kmのパステルツェ氷河の眺望をはじめ、グロースグロックナーの偉容に深い感銘を受けたと伝えられています。

グロースグロックナーの麓のハイリゲンブルートは、キリストの聖なる血が納められたといわれる聖ヴィンツェンツ巡礼教会で知られる山村です。伝説によれば、キリストの聖血（ハイリゲンブルート）を携えて旅していたピ

ルツブルク州の3つの連邦州にまたがっている広大な国立公園です。面積1787km²のホーエ・タウエルン国立公園の中心を形作っているのは、オーストリアの最高峰グロースグロックナー山を含む高い峰が連なるアルプス山岳地帯、氷河、滝、広く深い森林地帯、渓谷、穏やかな村々、そして高山の動植物です。これが、人々を圧倒するようなホーエ・タウエルン国立公園の傑出した特色です。ここを訪れる人は、この類希な動植物の世界をハイキングや特別なイベントなどを通じて知ることができます。

アイベックスやカモシカ、マーモットを観察するには、様々なガイド付きツアーに参加するのもおすすめです。

皇帝も愛したアドベンチャーワールド

グロースグロックナー・アルプス山岳道路



グロースグロックナー・アルプス山岳道路は、魅力的なパノラマビューが満喫できる、世界で最も風光明媚な自動車道路の一つで、国の歴史的な建造物として保護整備されています。全長48kmの山岳道路は、ホーエ・タウエルン国立公園の中心を通り、海拔2571mまで達し、オーストリア最高峰の麓を辿り、やがてパステルツェ氷河に至ります。標高2369mの展望台、フランツ・ヨーゼフス・ヘーエからは、グロースグロックナー山(3798m)の斜面と美しい雪原、それを取り囲む3000メートル級の峰々の雄大な眺めが楽しめます。展望台のセンターには

興味深い展示やレストランがあります。ハイキングをすれば、マーモットや、運が良ければアイベックス、カモシカやワシも見ることができます。雄大な自然の中で過ごす時間は、忘れ得ない楽しい旅の思い出となるでしょう。夏期の水・金曜はグロースグロックナーバスをご利用ください。

グロースグロックナー・アルプス山岳道路
Grossglockner Hochalpenstrassen AG
Rainerstrasse 2, A-5020 Salzburg
info@grossglockner.at
www.grossglockner.at

グラーツの 見どころ

旧市街と郊外のエッゲンベルク城は世界遺産。
ウィーンに次ぐオーストリア第2の都市グラーツは、
知る人ぞ知るグルメの都。



ウィーンから南へ列車で約2時間半で行くグラーツは、南欧の雰囲気が漂う文化都市。赤い瓦屋根の並ぶ旧市街は今もなお中世のたたずまいを色濃く残しています。

2003年欧州文化首都に指定されたことで、グラーツは他に類をみない独自性のある町に変化しました。古い街並みの中に極めて近代的な建物が溶け込んでおり、旧市街にアクセントを添えています。

シュロスベルク 13世紀の時計塔が立つ小高い山。グラーツはこの山を中心に発展してきました。山の上の城塞は、全時代を通じ最も堅固な城塞としてギネスブックにも載っています。19世紀初頭、ナポレオンさえも、この城塞を陥落させることはできませんでした。頂上へは石段を登るか、エレベーターを使います。上には眺めの良いカフェ・レストランもあり、旧市街の大パノラマが楽しめます。

MAP P.44 A-1

州立武器庫(ツォイクハウス) 州庁舎隣の武器庫は、トルコの襲撃に対する武器の常備庫として造られました。中世の鎧や鉄砲など1551年以来の武器3万点以上が保管されており、今でもすぐに使えるほど整備されています。冬期は休館です。

MAP P.44 B-1,2

大聖堂(ドーム) この聖堂は、ハプスブルク家の皇帝フリードリヒ3世が1438年から1464年に王宮用教会として造らせました。聖堂の南壁には、小さな張り出し屋根で保護された「苦難の絵」があり、1480年にシュタイヤマルクを襲ったペスト、トルコ人襲来、イナゴの大群という三つの苦難を表現しています。

MAP P.44 B-2



霊廟(マウソレウム) 皇帝フェルディナント2世の霊廟。この皇帝は、当時オーストリアの覇者としてグラーツに滞在し、文化史上非常に価値の高いハプスブルク家の霊廟の一つをグラーツに造らせました。イタリアの宮廷御用画家であったジョヴァンニ・ピエトロ・デ・ポミスの設計です。

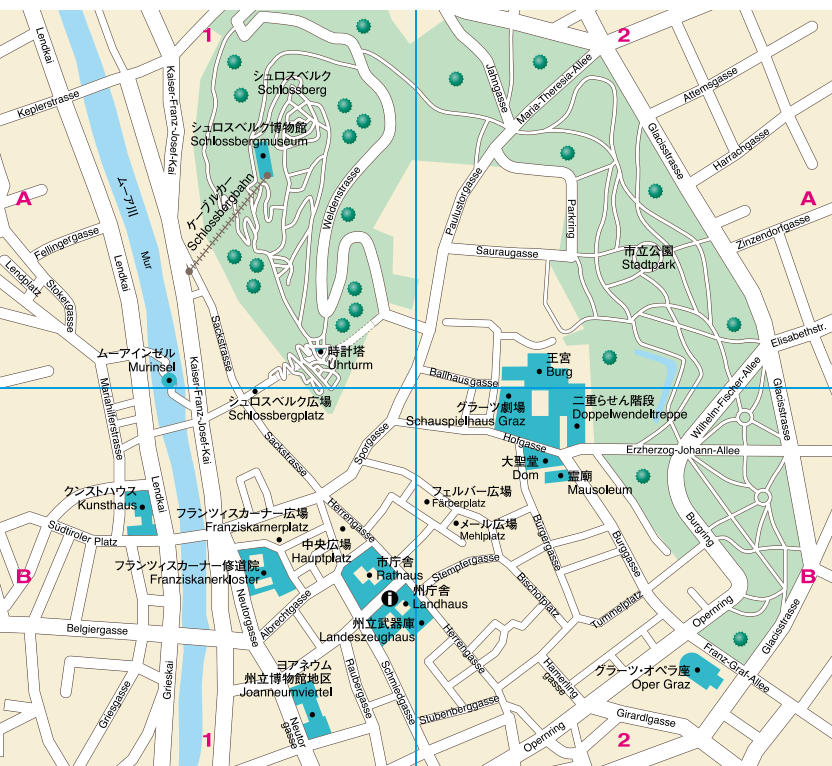
[MAP] P.44 B-2

王宮 15世紀にハプスブルク家の皇帝フリードリヒ3世が建て、後にその息子マキシミアン1世が手を加え後期ゴシック様式に改修しました。王宮の主な部分は19世紀に撤去され、現在は州知事官邸となっています。最初の中庭を突き抜けた第3棟の脇には、1499年につくられた「二重螺旋階段」があります。ゴシック末期の石工芸術の傑作です。

[MAP] P.44 A-2

州庁舎 北イタリアの宮殿様式で建てられた州庁舎は、支柱の下方に見られる彫刻と豪華な回廊をもつルネッサンス様式の美しい中庭が特徴です。

[MAP] P.44 B-1,2



45 中央広場と市庁舎 グラーツの街の中心。中央広場の真ん中には1878年に造られたヨハン大公像の噴水があります。これは、「シュタイヤマルクの王子」と呼ばれたヨハン大公を追悼するものです。丸屋根、時計、角型の塔を特徴とする市庁舎は、19世紀末から現在まで中央広場にその姿を誇っています。

MAP P.44 B-1

歴史的広場とロマンティックな小路 市庁舎が建つ中央広場、肉屋が多いフランツィスカナー広場、カフェが立ち並ぶメル広場、伝統と現代文化が融合したフェルバー広場、イベントで賑わうシュロスベルク広場はいずれも明るい雰囲気、独特で魅力的な文化的風土を生み出しています。

ヘレンガッセやシュポールガッセにはシックなブティックが、また、ザック通りには数多くの美術工芸専門店が並び、ショッピングや市内散策を楽しむことができます。

MAP P.44 B-1,2

クンストハウス グラーツ 建築家のピーター・クックとコリン・フルニエがこの印象深い建物を設計し、2003年に建設しました。ムアア川のほとりに建つ新しい現代建築とシュロスベルクの古い時計塔が生み出す独特のコントラストは、この街の象徴であり、そして、建設的で緊張感溢れる伝統性と前衛性の関係を具現しています。

MAP P.44 A-1



人と環境にやさしい グラーツ



緑のシュタイヤマルクの州都、グラーツは活動的なライフスタイル、魅力的な見どころ、印象的な建築物、アートのスペース、トレンド的なフェスティバル、流行のデザインショップ、食通の好みに応える多数のバーやレストランなど、訪れるすべての人々の心を掴んで放しません。

サステナブルなライフスタイルが大切にされる今日、グラーツは長年にわたって持続可能性と廃棄物ゼロの問題に取り組んできました。クールで公正に生産されたファッション、中古

品やヴィンテージの服や雑貨を扱うショップ、新鮮な食材を買い物かごに入れてショッピングするファーマーズ・マーケット、周辺地域の食材を使った美味しいメニュー、パッケージフリーの商品、再利用可能なデポジットカップ、市内中心部を走るトラムは無料… 持続可能性は街中で実現されています。天気の良い日は、シュロスベルクやエッゲンベルク城公園でピクニックをし、都市の自然に親しんでください。

グラーツ市観光局
Graz Tourismus
Herrengasse 16,
A-8010 Graz
info@graztourismus.at
www.visitgraz.com



お土産にも最適なのは、シュタイヤマルク州でまたの名を「黒い黄金」として知られるパンプキンシード・オイル。カボチャの種から抽出した薫り高いオイルで、ナッツのような味わいがあり、とても健康的な食品です。様々な料理で美味しさを引き立てます。

エッゲンベルク城 市内から市電1番で約15分西に

ムーアインゼル フランツィスカーナー広場からヨハン大橋までは数歩しか離れていません。そこから、「ムーア・プロムナード」(ムーア川沿岸遊歩道)へ下りて行ける階段があります。この川辺の道は、ほんの少し休憩したり、あるいは、ちょっと川に足をつけてみたりするのに最適です。

また、欧州文化首都をきっかけに設計された「ムーアインゼル」は、新たな街のシンボルです。ニューヨークの芸術家ヴィト・アコンチの設計で、この「川辺に浮かぶ貝」が創られました。二本の栈橋によって川の兩岸に繋がれており、中には喫茶店と半円形劇場があります。

MAP P.44 A-1

ファーマーズ・マーケット 活気に満ちたグラーツのファーマーズ・マーケットでは、この地域の農業従事者が採りたて作物を並べています。グラーツ・オペラ座の裏手にあるカイザー・ヨーゼフ・プラッツ広場やレントプラッツ広場のマーケットがおすすめです。営業時間は、月曜日から土曜日の午前6時から午後1時までです。

行ったところにあるこの城は、ヨハン・ウルリッヒ・フォン・エッゲンベルク侯爵が中世の城を基に、1623年に居城として建設しました。豪華な内部はガイドツアーで見学できます(冬期は閉館)。貴重な日本の屏風『豊臣期の大坂』も現在ここに公開されています。また、城内にはアルテギャラリーが入っており500年以上にわたるヨーロッパの絵画、美術品が展示されています(年間オープン)。美しい「惑星の庭園」と公園は四季を通じて市民の憩いの場となっています。



グラーツの文化イベント

3月に行われるオーストリア・フィルム・フェスティバル「ダイアゴナル」、6月には高名なクラシック音楽祭「シュティリアルテ」、演劇フェスティバル、ストリート・パフォーマンス、人形劇「ラ・ストラダ」などの他、グラーツ・オペラハウス、シャウシュピールハウス劇場、ヒップなクンストハウス、または見事なバロック建築で知られるエッゲンベルク城で行われる様々な音楽公演がグラーツの文化イベントに花を添えています。

グラーツの 郊外へ

州都をグラーツに置くシュタイヤマルク州は、
森が豊かなことから「緑の州」とも
呼ばれています。



南シュタイヤマルクのワイン街道

アルプスの大自然はもちろん牧歌的な村の風景も美しく、スロヴェニアと国境を接する南シュタイヤマルク地域はワインの名産地として有名です。エーレンハウゼンとロイチャッハ間のおよそ25kmの街道は、シュタイヤマルクで最も大きなワイン用ブドウ栽培地域です。グラーツからは約50km、高速道路で約45分のところにあり、週末には人気の高い訪問先となっています。

このワイン街道には、ブッシェンシャンクと呼ばれるワイン生産者の直営店が点在しますので、ワイン愛好家にお勧めのルートです。例えば、ワイン居酒屋と宿泊施設のあるワイナリー「ケーグル」では、300年の歴史を持つ家屋を改築し、良質のワインを楽しんだ後、車で移動したくないゲストのために客室を提供しています。ワイン樽の間で夜を過ごせるユニークな客室もあります。グラーツから観光バスも出ています。

ローグナー パート・ブルマウ

日本でも知られているオーストリアの芸術家フリーデンスライヒ・フンデルトヴァッサーが設計したこの温泉ホテルの建物は、カラフルなファサードと黄金の丸屋根を備えた、まさに「住める彫刻」。自然の風景と現代建築を融合した憩いと安らぎの場です。自由な造形、流れる曲線、虹の色彩…と、波打つ丘陵風景は生きた総合芸術であり、温泉の湧き出す自然が見事に調和しています。

ヘルス&ウェルネスセットをはじめ、その他の医学療法、バラエティーに富んだスポーツやイベントプログラム、子供アドベンチャークラブやヨガなどの特別セミナーなどが揃っています。グラーツから温泉への送迎バスもあります（5泊以上は無料）。

インスブルックの 見どころ

中世の面影をたたえる

ハプスブルク時代の帝都インスブルック。

チロル州は、夏はハイキング、冬はウインタースポーツの聖地。



インスブルックは、ハプスブルク帝国時代には「陰の首都」と呼ばれ、政治、経済、芸術の発展において、ウィーンに次ぐ中心地として栄えました。現在でも中世都市の面影を強く残しています。美しいアルプスの山々が町を取り囲み、自然と文化が融合する魅力的な町です。

黄金の小屋根 ハプスブルク家の黄金時代を築いた皇帝マキシミリアン1世の宮廷用観覧席として建てられた、後期ゴシック様式の張り出しテラス。金箔を貼った2657枚の瓦から“黄金の小屋根”と呼ばれています。欄干は砂岩のレリーフ、壁はフレスコ画が彩り、内部にはマキシミリアン1世の博物館があります。

MAP P.49 A-1

ホーフブルク王宮 インスブルックの町の中心にあるハプスブルク家の2つ目の王宮。ウィーン以外に「ホーフブルク」と名付けられた王宮はここだけです。ジークムント大公が1460年に創建し、その後マリア・テレジアによって改築されました。華麗なシャンデリアや天井画で飾られた大広間は見逃せません。

MAP P.49 A-1

宮廷教会 チロル民族博物館に隣接した教会で、マキシミリアン1世の像が置かれた棺と28体の見事なブロンズ像がある教会として有名です。デューラーのデザインしたアーサー王の像や、チロルの英雄アンドレアス・ホーファーの墓が堂内にあります。

MAP P.49 A-2

凱旋門 1765年、後の皇帝レオポルド2世とマリア・ルドヴィカの婚礼を記念して建てられた凱旋門。しかし、喜ばしい祝典の最中、女帝マリア・テレジアの夫で、父である皇帝フランツ・シュテファン・フォン・ロートリングゲンが急逝。このため凱旋門の片側には婚礼の場面、もう一方には皇帝の死を悼む場面が描かれています。

MAP P.49 B-1

ノルトケッテンバーン 市の北側に聳え立つノルトケッテ (2300m) へ、ホーフブルク王宮近くの駅からケーブルカーで約30分 (フンガーブルク駅でロープウェイに乗り換え) で上ることができます。頂上のノルトパークからはチロルの400以上のアルプスの山々からグロースグロックナーまで眺望できる雄大なパノラマが広がります。ベルクイーゼルのジャンプ台と同様、建築家ザハ・ハデイドがデザインした4つの駅舎も必見です。



ベルクイーゼル・ジャンプ台 オリンピックの町インスブルクのベルクイーゼルの丘に建つスキージャンプ台。パノラマ眺望を楽しむカフェ、展望テラスからはパッチャーコーフェル、ノルトケッテ、ホーエ・ムンデなどのアルプスの山々が望めます。通年オープン。人気の観光名所です。

アクセス: 市内からベルクイーゼル行の市電1番で15分

アンブラス城 インスブルク南東の近郊にあり、16世紀にチロルの大公フェルディナントが平民出身の愛妻フィリピーネ・ウェルザーのために建てた白亜の城。美しい自然公園の中にそびえる瀟洒な城館で、大広間や天井画は必見です。併設の博物館ではフェルディナント2世の代から伝わるハプスブルク家の美術品を展示しています。

アクセス: サイトシーアバスで訪れましょう。



インスブルックの 郊外へ

牧歌的な山の景色で知られるチロル州。
アルプスの渓谷美と素朴な人々と出会える
愛らしいチロルの町々へ。



チロル州は絵本の世界から抜け出してきたような愛らしい風景がどこまでも広がる理想郷です。インスブルックに滞在し、ローカル列車やポストバスを使って、美しい渓谷や町や村を日帰りして訪れてみましょう。

アルプバッハ

チロルならではの風物にひたることのできる村アルプバッハ。木造の家々の花一杯のテラスと緑の森はまるで絵葉書のように。

ゼーフェルト

インスブルックにほど近く、三方を山に囲まれた標高1180m、人口2800人のリゾート。駅前から真直ぐにのびる並木道は絵のように美しく牧歌的なメルヘンの世界。

キッツビュール

中世の面影を色濃く残す旧市街地には古風な家々が並び、町中の随所で見られる古い城門もノスタルジックな旅情を誘います。冬はスキーのメッカ。夏はハイキングに最適な地です。北は標高1998mのキッツビューラーホルン、南には標高1650mのハーネンカムがそびえています。

シュトゥーバイタール

インスブルックに近い、チロル屈指の美しい谷。この渓谷の中心地はノイシュティフト。谷の最奥シュトゥバイヤークレッチャーでは1年中氷河スキーを楽しめます。

サンクト・アントン

アルペンスキーの発祥地として知られ世界中のスキーヤーを魅了している町。スキー博物館もあります。夏はハイキングや登山のメッカで、お花畑をめぐるハイキングコースがお勧めです。

エッツタール

氷河に深く削られた谷の奥に位置するエッツタール渓谷。セルデンから3056mのガイストラッハ・コーゲルに上ると、チロル州最高峰のヴェルトシュピッツェをはじめ、氷河の山々を眺めることができます。また、最奥地のホーエムト展望台からは、雄大な山岳と大氷河を一望できます。

旅に役立つ 基本情報

商店の営業時間

商店は一般的に、月曜日から金曜日は9時～18時(店により8時から)、土曜日は17時まで営業しています。ウィーンのショッピングセンター等は、平日20時まで開いています。業種や季節により営業時間は変更され、特にリゾート地のハイシーズンは時間が延長されることもあります。日曜日や祝祭日は基本的に休業しますが、ミュージアムショップや一部のおみやげ店はオープンしています。

オーストリアの免税システム

オーストリアでの買物には付加価値税(MwSt.)が含まれていますが、条件を満たした外国の旅行者には、税金を免除する特典があります。通常、商品価格の約13%が払い戻されます。

オーストリアへのアクセス

- **飛行機** 日本からの直行便は、オーストリア航空が就航しており(ANAは運休中)、その他、多くの航空会社が経由便で日本とオーストリアを結んでいます。詳しいスケジュールは各社のウェブサイトをご覧ください。また、従来の国内線に代わり、オーストリア航空とオーストリア連邦鉄道ÖBBが協力して運行する、環境にやさしい「エアレイル AirRail」が登場。ザルツブルク/リンツ/グラーツ～ウィーン空港間を結んでいます。ウィーン国際空港シュヴェツヒャートの他、グラーツ、ザルツブルク、インスブルック、リンツ、クラゲンフルトの6都市に空港があります。
- **鉄道** 隣接するオーストリア周辺諸国と、ウィーン及びオーストリア各地を快適なレイルジェットが結んでいます。全国に渡り鉄道網が整備されています。
- **自動車** オーストリアのアウトバーン及びその他の高速道路網は極めて良く整備されており、気ままな個人旅行には最適の交通手段です。高速道路は有料のため、利用にはヴィニエット(ステッカー)が必要です。キオスク、ガソリンスタンドでも購入できます。 www.vignette.at

オーストリア政府観光局公式チャンネル

 **ウェブサイト**
www.austria.info

本誌に紹介されている各地の情報ははじめ、全国のご案内、イベントの紹介や有益なアドバイス、楽しい話題も豊富です。旅の計画づくりにお役にたください。

 **Facebook**
[@feelaustraliaJP](https://www.facebook.com/feelaustraliaJP)


オーストリアから直送の、あるいは日本国内でのオーストリアに関するホットニュースを発信しています。Facebook「オーストリアの休日」を有効にご活用ください。

 **Twitter**
[@ANTO_Tokyo](https://twitter.com/ANTO_Tokyo)

オーストリア関係の楽しい情報や、オーストリアの美しい写真を発信しています。

 **YouTube**
www.youtube.com/austria

冬はスキーや雪山のハイキングなどのアクティビティ、夏は緑の草原に行くハイキングや雄大な山岳登山、オーストリア料理を紹介する動画が各種リストアップされています。ビデオで躍動するオーストリアのハイライトをご覧ください。

 **メールニュース**
「オーストリアニュースレター」

オーストリア政府観光局では毎月一回、無料の「オーストリアニュースレター」を配信しています。このメールニュースでは、オーストリアで休日を過ごすためのヒントや、オーストリアに関する最新情報、日本におけるオーストリア関係のイベントなどの情報が得られます。ご登録はウェブサイトかQRコードで：
<https://www.austria.info/jp/Newsletter>






FOTO © Österreich Werbung/ Marco-Rossi

オーストリアの 持続可能な 休暇のスタイル

サステナブル・ツーリズム（持続可能な観光）が提唱される現在、観光の大衆化による環境や文化への悪影響、過度な商業化を避けて観光地本来の姿を求めていこうとする考え方が進んでいます。

オーストリアは世界で最も成功している観光地の一つです。このオーストリアで過ごす「持続可能な休暇」とは、一体どんな意味なのでしょう？ それは、大切な資源を利用し、オーストリアのずば抜けて質の高い生活を次世代も体験できるように配慮して自然を楽しむことといえます。

オーストリアの国立公園で生態学的な多様性を知ったり、エコホテルに宿泊したり、CO₂を排出しない交通手段で移動したり、ビオレストランでオーガニック料理を味わうなどして、オーストリア式のサステナブル・ツーリズムを体験してみたいはかがでしょうか。

 オーストリアの休日